

(様式第 10)

久大病 (管) 第 29 号
平成 30 年 10 月 5 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人久留米大学
理事長 永田 見生

久留米大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法 (昭和 23 年法律第 205 号) 第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則 (昭和 23 年厚生省令第 50 号) 第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 29 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地
氏 名	学校法人久留米大学 理事長 永田 見生

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

久留米大学病院

3 所在の場所

〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地	電話 (0942) 35-3311
-------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜</p> <p>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
①呼吸器内科	②消化器内科
5神経内科	6血液内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	3循環器内科
	7内分泌内科
	④腎臓内科
	8代謝内科
	11リウマチ科
診療実績	
循環器内科は心臓・血管内科、神経内科は脳神経内科、血液内科は血液・腫瘍内科、内分泌内科及び代謝内科は内分泌・代謝・糖尿病内科、感染症内科は呼吸器内科及び感染制御科 (院内診療科)、アレルギー疾患内科は呼吸器内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科等、リウマチ科は膠原病内科 (院内診療科)、整形外科で診療を行っている。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していな

い診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 <input checked="" type="checkbox"/> 1呼吸器外科 <input checked="" type="checkbox"/> 2消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 <input checked="" type="checkbox"/> 5血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 6心臓血管外科 7内分泌外科 <input checked="" type="checkbox"/> 8小児外科	
診療実績 乳腺外科及び内分泌外科は乳腺・内分泌外科（院内診療科）で診療を行っている。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="checkbox"/> 1精神科 <input checked="" type="checkbox"/> 2小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 3整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 4脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 5皮膚科 <input checked="" type="checkbox"/> 6泌尿器科 7産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 8産科 <input checked="" type="checkbox"/> 9婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 10眼科 <input checked="" type="checkbox"/> 11耳鼻咽喉科 <input checked="" type="checkbox"/> 12放射線科 13放射線診断科 <input checked="" type="checkbox"/> 14放射線治療科 <input checked="" type="checkbox"/> 15麻酔科 <input checked="" type="checkbox"/> 16救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 <input checked="" type="checkbox"/> 1小児歯科 <input checked="" type="checkbox"/> 2矯正歯科 <input checked="" type="checkbox"/> 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1形成外科 2リハビリテーション科 3病理診断科 4美容外科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
53床	床	床	床	972床	1,025床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	553人	4人	553.5人	看 護 補 助 者	93人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	8人	0人	8人	理 学 療 法 士	24人	臨 床 検 査 技 師	78人
薬 剤 師	66人	0人	66人	作 業 療 法 士	10人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	0人
助 産 師	54人	1人	55人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	999人	30人	1021.4人	臨 床 工 学 士	22人	医療社会事業従事者	21人
准 看 護 師	2人	0人	2人	栄 養 士	3人	その他の技術員	37人
歯 科 衛 生 士	4人	1人	4.5人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	153人
管 理 栄 養 士	14人	0人	14人	診 療 放 射 線 技 師	56人	そ の 他 の 職 員	45人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	28人	眼 科 専 門 医	16人
外 科 専 門 医	62人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	11人
精 神 科 専 門 医	19人	放 射 線 科 専 門 医	15人
小 児 科 専 門 医	33人	脳 神 経 外 科 専 門 医	15人
皮 膚 科 専 門 医	9人	整 形 外 科 専 門 医	16人
泌 尿 器 科 専 門 医	11人	麻 酔 科 専 門 医	21人
産 婦 人 科 専 門 医	26人	救 急 科 専 門 医	14人
		合 計	296人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (八木 実) 任命年月日 平成29年4月1日

平成26年4月1日～平成28年9月30日	医薬品安全管理責任者
平成25年4月1日～	医療安全管理対策委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	844.3人	19.0人	863.3人
1日当たり平均外来患者数	1697.8人	83.3人	1781.1人
1日当たり平均調剤数	1890.0剤		
必要医師数	190.4人		
必要歯科医師数	8人		
必要薬剤師数	29人		
必要(准)看護師数	495人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備		概要	
集中治療室	1546.99m ²	鉄筋コンクリート	病床数	61床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	483.43m ² 台	病床数 41床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積	79.8m ²	共用する室名		
化学検査室	468.78m ²	〃	(主な設備) ※別紙1のとおり			
細菌検査室	198.36m ²	〃	(主な設備) ※別紙1のとおり			
病理検査室	274.10m ²	〃	(主な設備) ※別紙1のとおり			
病理解剖室	56.53m ²	〃	(主な設備) ※別紙1のとおり			
研究室	26018.13m ²	〃	(主な設備) パソコン			
講義室	1612.5m ²	〃	室数 17室	収容定員 1,257人		
図書室	2838.18m ²	〃	室数 6室	蔵書数 276,139冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	84.8%	逆紹介率	77.9%
算出根拠	A: 紹介患者の数			18,698人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			18,769人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,741人
	D: 初診の患者の数			24,104人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
坪井 義夫	福岡大学病院	○	医療安全の知識を持つ医師	無	1
濱松 美香	福岡大学病院		医療安全の知識を持つ看護師	無	1
鷲山 厚司	福岡大学病院		医療安全の知識を持つ薬剤師	無	1
平田 ナツ子			医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 当院ホームページへの掲載	

主 な 設 備

		機 器
化学検査室	生化学	グルコース(2台)
		グリコヘモグロビンHA-8182 (2台)
		臨床化学自動分析装置 LABOSPECT008 (緊急検査)
		臨床化学自動分析装置 LABOSPECT008 α
		自動浸透圧測定装置オズモステーション
		呼気中 ^{13}C O $_2$ 分析装置 (POCONE ピロリ検査)
		ラピッドポイント500 (2台) 血ガス
		自動分析装置ディメンション EXL200
	免疫	自動化学発光酵素免疫分析装置 SphereLight wako
		全自動蛍光免疫測定装置ミュータスワコー i30
		エンドトキシン、 β -グルカン測定装置トキシノメーター MT-5500、拡張モジュール2台
		ステーション
		カテコールアミン分析計 HLC-725CA II
		全自動化学発光酵素免疫測定システム ルミパルスL2400
		アーキテクトi2000 SR
		コバス8000 e 801 (2台)
	一般	便潜血、尿中、髄液定量自動測定装置 QUICK RUN
		尿化学分析装置クリテック ノーバス
	凝固	HISCL-5000
		全自動血液凝固分析装置コアプレスタ (2台)
	輸血	全自動輸血検査装置オートビュー イノーバ
	輸血	全自動輸血検査装置オートビュー イノーバ
	細菌検査室	細菌検査
cobas 6800可動式 \times 1式 cobas TaqMan \times 1式		
自動同定感受性検査装置 バイテック2コンパクト		
自動培養自動分析バクテックFX Stack400		
病理検査室	病理検査	密閉式自動固定包埋装置 (VIP6)
		自動特殊染色装置 (Ventana NX-SS System)
		自動免疫染色装置 (Ventana BenchMark XT)
		自動免疫染色装置 (ライカボンドIII)
		自動HE染色装置 (Ventana Symphony)
		自動染色装置 (サクラティッシュテックDRS-2000)
病理解剖室		解剖台
		カメラ、モニター

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨髄細胞移植による血管新生療法	人
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	7人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	4人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテラーメイドのがんワクチン療法 ホルモン不応性再燃前立腺がん(ドセタキセルの投与が困難な者であって、HLA-A24が陽性であるものに限る。)	人
経胎盤的抗不整脈薬投与療法 胎児頻脈性不整脈(胎児の心拍数が毎分百八十以上で持続する心房粗動又は上室性頻拍に限る。)	2人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェテル経口投与による寛解維持療法 特発性ネフローゼ症候群(当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性頻回再発型又はステロイド依存性のものに限る。)	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ミトコンドリア脳筋症(MELAS)に対するL-アルギニン治療	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要			
ミトコンドリア脳筋症の一種型であり脳卒中様発作を主徴とする難病MELASの治療については、世界的にみて有効な治療法は見いだされていない。L-アルギニン療法は、MELASの急性期治療および発作寛解期の脳卒中様発作の予防治療として注目されており、現在、医師主導治験が終了し、L-アルギニンの承認申請手続きを行っている。			
医療技術名	ミトコンドリア脳筋症の遺伝子診断	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
臨床的にミトコンドリア脳筋症を疑われた症例のミトコンドリアDNAの検索依頼を受け、久留米大学医学部小児科の研究室でDNAを分離し、点変異の解析および、16.6kbのミトコンドリアDNAの全塩基解析を行っている。			
医療技術名	ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要			
高乳酸血症は、種々の難治性神経・代謝疾患で観察される重要な病態であるが、治療薬は今だ世界に存在せず、その病態を踏まえた新しい治療薬の開発が熱望されている。ピルビン酸ナトリウム(PA)治療は、ミトコンドリア病の細胞モデルで細胞死を防ぐ効果があり、乳酸の軽減効果と臨床の有効性がある事が分かっている(Mitochondrion 2007;7:399-403)。現在は工業用試薬を使用しているが、ミトコンドリア病患者に対する医師主導治験も実施しており、最終的には医薬品として上市を目指している。この医療の提供により、患者のQOL改善や社会参加、また医療費抑制等に大きく貢献できると考えられる。			
医療技術名	ミトコンドリア病のスクリーニングを目的としたFGF21とGDF15の測定	取扱患者数	500人
当該医療技術の概要			
ミトコンドリア脳筋症の診断は非常に難しいが、我々はミトコンドリア病の診断・重症度判定のバイオマーカーとしてGDF15が有用であることを発見し報告した。この評価法を用い、ミトコンドリア病が疑われる患者の検体でGDF15並びにFGF21の測定を行って臨床的な貢献を行っている。測定は全国サービスとして行っている。			
医療技術名	一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
肺高血圧を呈した児や肺に血液が流れにくい児に対して、肺血管を拡張させる作用をもつ一酸化窒素を吸入する治療法である。			
医療技術名	脳保護を目的とした低体温療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
新生児の低体温療法は、低酸素性虚血性脳症(HIE)による恒久的な脳障害を予防あるいは軽減する目的で始められた治療法である。			
医療技術名	肛門部手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
直腸癌に対する超低位前方切除術や括約筋間直腸切除術、大腸全摘手術などの再建における経肛門吻合術			
医療技術名	消化管術後の諸機能検査	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要			
消化管の内圧検査、酸分泌機能検査			
医療技術名	脳保護を目的とした低体温療法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
体温を軽度低体温に維持することで心肺停止蘇生後や重症頭部外傷での脳保護をねらう医療技術。導入期・維持期・復温期を通して鎮静下に人工呼吸器管理・循環管理を行うため、極めの細かい集中治療の装置とマンパワーを必要とする。			
医療技術名	ロボット支援前立腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	57人
当該医療技術の概要			
限局性前立腺癌に対する主たる根治治療法として従来の開腹あるいは腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術と比較してda Vinciシステムの利用により、さらに精密な手術操作が可能となり、結果として出血量の低減やがん根治性の向上、術後機能(勃起、尿禁制)維持の改善が期待される術式である。			
医療技術名	尿管鏡による上部尿路腫瘍の診断と治療	取扱患者数	39人
当該医療技術の概要			
診断がしばしば困難とされる上部尿路腫瘍に対し、細径尿管鏡を用いた組織診断と適応症例に対するレーザー切除術を施行している。			

医療技術名	婦人科がん患者に対するテーラーメイドペプチドワクチン療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 標準的治療に対して抵抗もしくは再発した患者に対し、個々の患者に適したペプチドを投与するテーラーメイドがんワクチン療法を行う。			
医療技術名	胎児異常に対する外科的胎児治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 胎児胸水および胎児下部尿路閉塞に対し、胎児-羊水腔シャント術を行う。			
医療技術名	子宮悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節の同定	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 99mTc-フチン酸およびIndocyanine greenを用いて、子宮頸癌および子宮体癌手術におけるセンチネルリンパ節を同定する。			
医療技術名	DMEK(Descemet's membrane endothelial keratoplasty)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 現在、角膜内皮移植術では主流であるDSAEK(Descemet's stripping automated endothelial keratoplasty)をさらに進化させた術式である。			
医療技術名	内視鏡下副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 前頭洞炎に対する内視鏡下前頭洞単洞化手術である。以下の施設基準が必要である。5年以上の耳鼻咽喉科の常勤医師(1名以上)とほかの耳鼻咽喉科の常勤医師、5年以上の脳神経外科の常勤医師(1名以上)と眼科の常勤医師(1名以上)および5例以上の内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型の経験を有する耳鼻咽喉科の常勤の医師が必要で2015年に当院では施設基準を満たしている。			
医療技術名	経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)	取扱患者数	105人
当該医療技術の概要 経外耳道的内視鏡下耳科手術(transcanal endoscopic ear surgery: TEES)は、耳科手術のほとんどのプロセスを内視鏡下で行う低侵襲手術であり、ハイビジョン画質(Full HD)の3CCDカメラを搭載した内視鏡と精細で高解像度な細径内視鏡の出現により、近年国内外で急速に普及しつつある。			
医療技術名	頭頸部癌再建術、頭蓋底手術	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 形成外科、食道外科と再建チームを編成し、頭頸部癌に対する拡大切除後の再建術を行っている。また脳神経外科と協力し頭蓋底部に浸潤する腫瘍の一塊切除を目的とした頭蓋底手術を行っている。これらの手術は高度な技術、またチーム医療が不可欠であり、特定機能病院として高度な医療を提供していると判断する。			
医療技術名	内視鏡下輪状咽頭筋切断術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 嚥下機能改善手術の一つである輪状咽頭筋切断術を経口法によって施行し嚥下障害を改善する術式である。下咽頭腔鏡と手術用顕微鏡の使用により食道入口部を展開する操作により輪状咽頭筋隆起がはっきりと区別できることから、従来の外切開法に比べて低侵襲に行える長所があり、近年国内外で普及してきている。			
医療技術名	声帯内自家脂肪注入術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 一側声帯麻痺など発声時の声門閉鎖不全に対する手術で、脂肪組織を採取し精製した後に直達喉頭鏡下に声帯内に脂肪を注射する。術後に嚙声や嚥下障害の改善が期待出来る術式であり、近年普及して来た術式である。			
医療技術名	肩関節周囲炎による慢性疼痛に関するカテーテル治療	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 肩関節周囲炎による激しい痛みが継続する場合に、周囲に血管増生がおり、それを塞栓することで痛みの軽減を得る治療法。日本で開発された治療法。少数の施設のみで施行されているものである。			
医療技術名	重症外傷に対する初期診療、特にMT療法およびIABO/REBOAによる救急蘇生	取扱患者数	68人
当該医療技術の概要 重症外傷患者の最大の死因は制御困難な出血である。出血に対する治療戦略、特に根治的止血操作に繋げるまでの緊急輸血療法技術と大動脈内バルーン閉塞を用いた出血制御(IABO/REBOA)は、外傷初期診療において重要で必須の技術である。			
医療技術名	心肺停止後蘇生患者および重症頭部外傷患者に対する体温管理療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 心肺停止後蘇生患者や重症頭部外傷患者に対する脳保護を目的とした脳指向型集中治療法の一つである。軽度低体温(高体温の回避)を早期に導入し、復温期まで合併症を回避しつつ、きめ細やかな人工呼吸器下の呼吸・循環管理を必要とする。			
医療技術名	体外循環式心肺蘇生法(ECPR)	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 通常の蘇生治療に反応しない院内・院外発症の心肺停止例に対する人工心肺装置を用いた蘇生技術である。神経学的良好な予後を得るためには、導入に対する適切な判断力、low-flow time短縮のための技術、出血や虚血等の合併症に対する知識と治療技術を要す。			

医療技術名	重症熱中症患者に対する体外循環を用いた急速冷却療法	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>意識障害や臓器障害を伴う重症熱中症に対する急性期の治療技術である。高体温の持続は、臓器障害を引き起こし、神経学的な予後を悪化させるため、通常の治療に反応しない重症例が適応となる。的確な導入と合併する臓器障害に対する集中治療を行う技術を要す。</p>			
医療技術名	ドクターカー・ドクターヘリを用いた病院前救急診療	取扱患者数	246人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>医師および看護師、救命士が、救急現場に出動し、現場から救急医療を開始するシステムである。限られた情報と限定された医療機器の中で行われる医療であり、高い診断能力と高い救急蘇生技術、地域の医療システムの熟知が必要な医療である。</p>			
医療技術名	肝胆膵外科手術における3次元シミュレーション	取扱患者数	200人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>肝切除、膵切除におけるCT3次元画像ならびに3Dプリンター作成による脈管の個別的分岐異常に対応した術前の術式シミュレーション。</p>			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球腎性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	142
2	筋萎縮性側索硬化症	27	57	特発性拡張型心筋症	128
3	脊髄性筋萎縮症	16	58	肥大型心筋症	238
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	3
5	進行性橋上性麻痺	17	60	再生不良性貧血	102
6	パーキンソン病	585	61	自己免疫性溶血性貧血	23
7	大脳皮質基底核変性症	16	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	185
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	3
10	シャルコー・マリー・トゥース病	15	65	原発性免疫不全症候群	7
11	重症筋無力症	180	66	IgA 腎症	222
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	101
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	126	68	黄色靱帯骨化症	109
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	39	69	後縦靱帯骨化症	316
15	封入体筋炎	6	70	広範脊柱管狭窄症	7
16	クドウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	15
17	多系統萎縮症	11	72	下垂体性ADH分泌異常症	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	78	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	
20	副腎白質ジストロフィー	4	75	クッシング病	15
21	ミトコンドリア病	17	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	70	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	1
26	HTLV-1関連脊髄症	23	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症	2	82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	6	83	アジソン病	10
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	283
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	127
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	155
32	自己食空腔性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	21
34	神経線維腫症	50	89	リンパ管筋腫症	6
35	天疱瘡	221	90	網膜色素変性症	69
36	表皮水疱症	11	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	18	92	特発性門脈圧亢進症	11
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	13	93	原発性胆汁性肝硬変	185
39	中毒性表皮壊死症	3	94	原発性硬化性胆管炎	12
40	高安動脈炎	8	95	自己免疫性肝炎	147
41	巨細胞性動脈炎	4	96	クローン病	156
42	結節性多発動脈炎	28	97	潰瘍性大腸炎	415
43	顕微鏡的多発血管炎	58	98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症	67	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	25	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	17	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パーシャー病	55	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	339	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	243	105	チャージ症候群	4
51	全身性強皮症	43	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	83	107	全身型若年性特発性関節炎	6
53	シェーグレン症候群	508	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	37	109	非典型溶血性尿毒症症候群	3
55	再発性多発軟骨炎	6	110	ブラウ症候群	3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
111	先天性ミオパチー	15	161	家族性良性慢性天疱瘡	3
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	1	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	138
113	筋ジストロフィー	33	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮皮膚白皮症	2
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜症	1
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	5
117	脊髄空洞症	31	167	マルファン症候群	40
118	脊髄髄膜瘤	20	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	1
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	30
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	3
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮膚下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	2	177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	2	178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	5
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	4
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	3
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	2
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	2	184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリズ症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスマンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	2
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	2
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	4
140	ドラベ症候群		190	膵耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	ブラダー・ウィリ症候群	12
144	レノックス・ガストー症候群	32	194	ソトス症候群	2
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	10
146	大田原症候群		196	ヤング・シンブソン症候群	1
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	2
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	2
150	環状20番染色体症候群	200		第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎	201		アンジェルマン症候群	3
152	PCDH19関連症候群	202		スミス・マギニス症候群	
153	難治癲癇部分発作重積型急性脳炎	203		22q11.2欠失症候群	9
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群	48	206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	14	207	総動脈幹遺残症	1
158	結節性硬化症	15	208	修正大血管転位症	10
159	色素性乾皮症	4	209	完全大血管転位症	10
160	先天性魚鱗癬	6	210	単心室症	34

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	4	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	23	260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイトロミクロン血症	
215	ファロー四徴症	111	263	脳腫黄色腫症	2
216	両大血管右室起始症	31	264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症	2
218	アルポート症候群	2	266	家族性地中海熱	41
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	63	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎	3	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	6
222	一次性ネフローゼ症候群		270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膿性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	10
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	4
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	8	274	骨形成不全症	20
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	14
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーム病	4
230	肺胞低換気症候群	5	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレネー・ウェーバー症候群	4
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	280	283	後天性赤芽球病	
236	偽性副甲状腺機能低下症	3	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	2
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	3
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1	287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症	23	288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クローンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	3
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症	5	292	総排泄腔外反症	1
245	プロピオン酸血症	10	293	総排泄腔遺残	6
246	メチルマロン酸血症	13	294	先天性横隔膜ヘルニア	5
247	イソ吉草酸血症	3	295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症	1	296	胆道閉鎖症	29
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	2
250	グルタル酸血症2型	1	298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症	38	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	34
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	16
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	3
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病	1	304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	4
258	ガラクトース-1-リン酸ウリシルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	40

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチシルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん	2	321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	2
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	2
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	4
318	シトリン欠損症	13	330	先天性気管狭窄症	6

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
歯科外来診療環境体制加算	後発医薬品使用体制加算2
歯科診療特別対応連携加算	病棟薬剤業務実施加算1
特定機能病院入院基本料	データ提出加算
特定機能病院入院基本料 ADL維持向上等体制加算(注10)	入退院支援加算1
超急性期脳卒中加算	入退院支援加算1に伴う入院時支援加算(注7)
診療録管理体制加算2	認知症ケア加算1
医師事務作業補助体制加算1(40対1)	精神疾患診療体制加算
急性期看護補助体制加算25:1(看護補助者5割以上)	精神科急性期医師配置加算
看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	救命救急入院料1
療養環境加算	救命救急入院料4
重症者等療養環境特別加算	特定集中治療室管理料1
無菌治療室管理加算1	特定集中治療室管理料1 早期離床・リハビリテーション加算(注4)
無菌治療室管理加算2	ハイケアユニット入院医療管理料1
緩和ケア診療加算	総合周産期特定集中治療室管理料
精神科身体合併症管理加算	新生児治療回復室入院医療管理料
精神科リエゾンチーム加算	小児入院医療管理料1
摂食障害入院医療管理加算	緩和ケア病棟入院料2
栄養サポートチーム加算	精神科急性期治療病棟入院料1
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
感染防止対策加算1 抗菌薬適正使用支援加算(注3)	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
高度難聴指導管理料	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
慢性維持透析患者外来医学管理料 腎代替療法実績加算(注3)	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
糖尿病合併症管理料	持続血糖測定器加算
がん性疼痛緩和指導管理料	遺伝学的検査
がん患者指導管理料イ	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
がん患者指導管理料ロ	検体検査管理加算(Ⅰ)
がん患者指導管理料ハ	検体検査管理加算(Ⅳ)
外来緩和ケア管理料	国際標準検査管理加算
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	遺伝カウンセリング加算
糖尿病透析予防指導管理料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	胎児心エコー法
外来放射線照射診療料	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
療養・就労両立支援指導料 相談体制充実加算(注2)	ヘッドアップティルト試験
がん治療連携計画策定料	人工腎臓 Ⅰ 慢性維持透析を行った場合1
ハイリスク妊産婦連携指導料1	人工腎臓 ロ 導入期加算2(注2)
ハイリスク妊産婦連携指導料2	人工腎臓 透析液水質確保加算(注9)
肝炎インターフェロン治療計画料	人工腎臓 慢性維持透析濾過加算(注13)
薬剤管理指導料	人工臓臓
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	皮下連続式グルコース測定
医療機器安全管理料1	長期継続頭蓋内脳波検査
医療機器安全管理料2	神経学的検査
医療機器安全管理料(歯科)	補聴器適合検査
歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算	小児食物アレルギー負荷検査
歯科治療時医療管理料	内服・点滴誘発試験
歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算	センチネルリンパ節生検(単独)
在宅患者歯科治療時医療管理料	CT透視下気管支鏡検査加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
有床義歯咀嚼機能検査 2 有床義歯咀嚼機能検査2 □ 咬合圧測定のみを行う場合	医療保護入院等診療料
咬合圧検査	エタノールの局所注入(甲状腺)
精密触覚機能検査	エタノールの局所注入(副甲状腺)
画像診断管理加算2	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
遠隔画像診断	手術用顕微鏡加算
ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	口腔粘膜処置
CT撮影及びMRI撮影	CAD/CAM冠
冠動脈CT撮影加算	歯科技工加算
外傷全身CT加算	皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算)
心臓MRI撮影加算	組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
乳房MRI撮影加算	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
小児鎮静下MRI撮影加算	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
外来化学療法加算1	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
無菌製剤処理料	羊膜移植術
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
運動器リハビリテーション料(I)	網膜再建術
呼吸器リハビリテーション料(I)	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
がん患者リハビリテーション料	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
リンパ浮腫複合的治療料	上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
歯科口腔リハビリテーション料2	上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
精神科作業療法	乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)
精神科ショート・ケア「大規模なもの」	乳がんセンチネルリンパ節加算2(単独法)
精神科デイ・ケア「大規模なもの」	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	膀胱水圧拡張術
経カテーテル大動脈弁置換術	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
胸腔鏡下弁形成術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
胸腔鏡下弁置換術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
経皮的中心隔心筋焼灼術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(電池交換を含む。)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
ペースメーカー移植術 リードレスペースメーカーの場合	胎児胸腔・羊水腔シャント術
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)	輸血管管理料 I
両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術	輸血適正使用加算
大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	自己生体組織接着剤作成術
補助人工心臓	自己クリオプレシピレート作製術(用手法)
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	人工肛門・人工膀胱造設前処置加算
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	歯周組織再生誘導手術
体外衝撃波胆石破碎術	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)	歯根端切除手術の注3
腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)	レーザー機器加算
生体部分肝移植術	麻酔管理料(I)
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	麻酔管理料(II)
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	放射線治療管理料 放射線治療専任加算
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	放射線治療管理料 外来放射線治療加算
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	高エネルギー放射線療法
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	1回線量増加加算
同種死体腎移植術	強度変調放射線治療(IMRT)
生体腎移植術	画像誘導放射線治療(IGRT)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	6回
剖検の状況	剖検症例数 44例 / 剖検率 10.0%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	IL-18, IL38制御による炎症性肺疾患の治療	星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	1,400,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
2	パーキンソン病の簡易画像バイオマーカーの開発	谷脇 考恭	呼吸器・神経・膠原病内科	600,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
3	膠原病疾患における好中球NETsの役割の検討と治療への応用	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	1,000,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
4	自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、重症度分類、診療ガイドライン確立に関する研究	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	600,000	補 難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)
5	自己炎症性疾患の治療標的分子同定および薬剤開発基盤整備	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	750,000	委 難治性疾患実用化研究事業(AMED)
6	肺局所制御性T細胞の新規同定と慢性気道炎症抑制機構解明の基盤研究	川山 智隆	呼吸器・神経・膠原病内科	1,300,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
7	特発性肺線維症の新規バイオマーカー;ペリオスチンの研究	岡元 昌樹	呼吸器・神経・膠原病内科	1,400,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
8	高齢者の小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究	山田 一彦	呼吸器・神経・膠原病内科	153,847	委 革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
9	ドライバー遺伝子変異依存肺癌における免疫避脱機構の解明と治療戦略	東 公一	呼吸器・神経・膠原病内科	1,100,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
10	ネオアンチゲン特異的な抗腫瘍免疫応答の解析と個別化がん免疫治療への応用	東 公一	呼吸器・神経・膠原病内科	500,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
11	Liquid Biopsyによる分子標的薬の治療感受性・抵抗性の予測及び新規獲得耐性機序の解明	東 公一	呼吸器・神経・膠原病内科	500,000	委 革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
12	CD163陽性M2マクロファージの関節炎における機能解析と治療への応用	海江田 信二郎	呼吸器・神経・膠原病内科	1,300,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
13	神経イオンチャネル障害から見たレット症候群の病態解明と治療薬の探索研究	貴田 浩志	呼吸器・神経・膠原病内科	1,300,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
14	吸入薬服薬アドヒアランスの新たな評価法の開発と服薬遵守向上システムの構築	今村 陽平	呼吸器・神経・膠原病内科	1,800,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
15	非癌部肝組織におけるDNAメチル化異常の網羅的解析による肝発癌予測法の開発	鳥村 拓司	消化器内科	1,430,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
16	肝炎ウイルス感染状況と感染後の長期経過に関する研究	鳥村 拓司	消化器内科	1,000,000	補 肝炎等克服政策研究事業(厚生労働省)
17	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対するG-CSF動員自家末梢血CD34陽性細胞の経肝動脈移植に関する臨床研究	鳥村 拓司	消化器内科	56,588,642	委 再生医療実用化研究事業(AMED)
18	潰瘍性大腸炎合併癌における粘膜付随細菌叢の網羅的解析	光山 慶一	消化器内科	1,430,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
19	インフリキシマブ治療抵抗性クローン病患者を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施	光山 慶一	消化器内科	650,000	委 橋渡し研究戦略的推進プログラム(AMED)
20	肝癌および非アルコール性肝炎に対する生体内抗酸化因子による治療法の開発	吉田 隆文	消化器内科	2,470,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
21	TCF-4/CLAUDIN-2/HES1 軸による肝癌幹細胞用形質制御	古賀 浩徳	消化器内科	2,080,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
22	エクソソーム解析による降癌高精度診断および肝癌特異的血管新生抑制療法確立	古賀 浩徳	消化器内科	2,400,000	補 石橋助成金及び学術研究助成金
23	腫瘍血管内皮細胞特異的なマイクロRNAを標的とした新しい血管新生抑制治療の確立	岩本 英希	消化器内科	2,000,000	補 公益財団法人 武田科学振興財団 2017年度医学系研究奨励(がん領域・基礎)
24	ノンコーディングRNAを用いた癌血管に特異的な革新的分子標的治療の開発	岩本 英希	消化器内科	300,000	補 公益財団法人福岡県すこやか健康事業団(平成29年度がん研究助成金)

25	自己組織化ペプチドハイドロゲルを用いた効率的な肝再生細胞療法開発のための基礎研究	中村 徹	消化器内科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基礎研究(C)
26	炎症性腸疾患のサロゲートマーカー、治療標的としてのTRPLセプターの臨床応用	山崎 博	消化器内科	910,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基礎研究(C)
27	ウイルス肝炎を含む代謝関連肝がんの病態解明及び治療法の開発等に関する研究	川口 巧	消化器内科	3,900,000	委	感染症実用化研究事業(肝炎等克服実用化研究事業)(AMED)
28	運動誘発性筋ホルモン irisin による NASH 関連肝癌抑制効果の検討	川口 巧	消化器内科	500,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基礎研究(C)
29	膵癌患者腹水中エクソソーム由来CD133の臨床・基礎的検討	阪上 尊彦	消化器内科	500,000	補	平成29年度学術研究振興資金(若手研究者奨励金)(日本私立学校振興・共済事業団)
30	肝炎ウイルス検査受検から受診、受療に至る肝炎対策の効果検証と拡充に関する研究	井出 達也	消化器内科	500,000	補	肝炎等克服政策研究事業(厚生労働省)
31	職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効果的なフォローアップシステムの開発・実用化に向けた研究	井出 達也	消化器内科	250,000	補	肝炎等克服政策研究事業(厚生労働省)
32	Thrombospondin-2は、一般住民において心機能低下の予知因子であるか?	足達 寿	心臓・血管内科	1,430,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基礎研究(C)
33	大動脈解離におけるマクロファージ分化制御機構の解明と治療応用への挑戦	大野聡子	心臓・血管内科	780,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基礎研究(C)
34	大動脈解離の革新的な治療法開発:mTOR経路を標的とした病態制御戦略	青木浩樹	心臓・血管内科	6,240,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基礎研究(B)
35	一般住民における腸内フローラと動脈硬化性疾患の関連についての疫学的検討	深水亜子	心臓・血管内科	1,950,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基礎研究(C)
36	大動脈解離における血管平滑筋STAT3の保護的役割の解明	平方佐季	心臓・血管内科	1,690,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基礎研究(C)
37	塩分過剰による大動脈解離増悪メカニズム: IL-17によるECM制御機構の解明	西田憲史	高度救命救急センター	1,950,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
38	虚血再灌流後心筋障害におけるIL-22の役割の解明	高橋甚彌	心臓・血管内科	1,950,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
39	サルコペニアが下肢虚血と血管新生療法に及ぼす影響とメカニズムの解明	佐々木基起	高度救命救急センター	1,170,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
40	大動脈解離における増殖応答の意義解明	林真貴子	心臓・血管内科	1,950,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
41	心筋リモデリングと心不全における非心室心筋細胞のJak/SOCS系の役割	安川秀雄	心臓・血管内科	1,690,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基礎研究(C)
42	免疫制御分子Sykを標的とした大動脈解離の病態解明と増悪阻止療法の開発	古荘 文	心臓・血管内科	1,690,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基礎研究(C)
43	新たな心筋保護サイトカインIL-22の梗塞後左室リモデリングにおける役割	野原正一郎	高度救命救急センター	2,080,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
44	脂肪由来間葉系前駆細胞を用いた動脈硬化性疾患に対する血管新生療法	福本義弘	心臓・血管内科	7,900,000	補	公益財団法人 車両競技公益資金記念財団
45	メタボリック症候群における脳腎関連メカニズム~AGEs-RAGE系の役割	深水 圭	腎臓内科	1,100,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基礎研究(C)
46	高血圧腎障害に対する新規治療薬RAGE-DNAアプタマーの開発とメカニズムの解明	柴田 了	腎臓内科	1,400,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基礎研究(C)
47	RAGE-aptamerのループ腎炎に対する腎保護作用とそのメカニズムの解明	田口 顕正	腎臓内科	1,400,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
48	父親の過栄養が仔の腎機能に及ぼす影響やその機序について検討	山田 奈々	腎臓内科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
49	発達障害への包括的治療法によって母親養育レジリエンスは改善するか?	山下 裕史朗	小児科	1,100,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基礎研究(C)
50	発達障害の治療法の確立をめざすトランスレーショナルリサーチ	山下 裕史朗	小児科	1,000,000	補	精神・神経疾患研究開発費(国立精神・神経医療研究センター)
51	生体リズムに着目した発達障害の解析	山下 裕史朗	小児科	2,500,000	補	理化学研究所共同プロジェクト

52	母子の健康改善のための母子保健情報活用に関する研究	永光 信一郎	小児科	1,200,000	補	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(厚生労働省)
53	望まれる子どもの睡眠習慣の啓発 -バイオマーカーを用いた科学的実証研究-	永光 信一郎	小児科	1,100,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
54	親子の心の診療を実施するための人材育成方法と診療ガイドライン・保健指導プログラムの作成に関する研究	永光 信一郎	小児科	2,350,000	補	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(厚生労働省)
55	小児期発症脊髄性筋萎縮症に対するバルプロ酸ナトリウム多施設共同医師主導治験の実施研究	弓削 康太郎	小児科	1,250,000	委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
56	ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究—試薬からの希少疾病治療薬開発の試み—	古賀 靖敏	小児科	209,950,000	委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
57	ミトコンドリア病の新規バイオマーカー-GDF15とFGF21の交絡因子の解明	ハツ賀 秀一	小児科	1,950,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
58	小児肝疾患におけるオキシステロールの病態解析とバイオマーカーとしての可能性	水落 建輝	小児科	910,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
59	胆道閉鎖症診療ガイドライン改定を目指したエビデンス創出研究	水落 建輝	小児科	1,040,000	委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
60	小児期のウイルス性肝炎の病態解明と治療の標準化に関する研究	水落 建輝	小児科	200,000	委	肝炎等克服実用化研究事業(AMED)
61	ドラッグ・リポジショニングによる難治性小児肝内胆汁鬱滞症の特効薬開発を指向したフェニル酪酸ナトリウムの有効性と安全性の検討を目的とした臨床研究	水落 建輝	小児科	130,000	委	創薬基盤推進研究事業(AMED)
62	小児期から移行期・成人期を包括する希少難治性慢性消化器疾患の医療政策に関する研究班	水落 建輝	小児科	100,000	補	難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)
63	新生児ループスによる心筋障害の体内診断法確率と胎児治療法開発のための研究	前野 泰樹	小児科	4,030,000 (平成28年度～平成30年度)	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
64	大腸癌肝転移切除例に適した新規抗がん剤を用いた術後補助化学療法の研究	赤木 由人	外科	400,000	委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
65	潰瘍性大腸炎を起点とする炎症促進性因子を介した造腫瘍機械の解明と臨床応用	衣笠 哲史	外科	1,690,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
66	脂肪幹細胞移植による肛門機能改善に関する研究	藤田 文彦	外科	2,860,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
67	食道癌におけるTCRレパトア解析	主藤 朝也	外科	1,835,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
68	三池炭塵爆発によるCO中毒患者の身体機能解析と見守りが必要な高齢者へ応用可能な動作解析装置開発の研究	志波 直人	整形外科	11,563,000	補	労災疾病臨床研究事業(厚生労働省)
69	脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	佐藤 公昭	整形外科	250,000	補	難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)
70	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	平岡 弘二	整形外科	153,846	委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
71	植物由来のバイオ接着剤を用いた骨折治療への応用	白濱 正博	整形外科	1,100,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
72	マクロファージを抑制根絶を目指す！新型電子顕微鏡での肥厚性瘢痕、ケロイドの研究	古賀 憲幸	形成外科・顎顔面外科	800,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
73	“主幹脈収縮説”を基盤としたもやもや病早期診断/重症化予想法の確立	森岡 基浩	脳神経外科	1,100,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
74	ハプトグロビン・ジェノタイプングによる脳血管疾患予防/予後予測法の確立	青木 孝親	脳神経外科	700,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
75	術中眼球運動モニターの開発のための基礎研究とピエゾセンサの応用	坂田 清彦	脳神経外科	800,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
76	クモ膜下出血後の脳血管攣縮、遅発性虚血障害発症分子としてのDAMPs	菊池 清志	脳神経外科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)

77	ハプトグロビンは頭蓋内出血後の合併症及び予後の予測因子になりうるか	青木 孝親	脳神経外科	80,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
78	重症頭部外傷後意識障害/高次脳機能障害患者に対する、仮想摂食行為を利用した新しいリハビリテーション療法(Virtual Eating Rehabilitation therapy: VERT)による脳機能活性化研究	森岡 基浩	脳神経外科	3,000,000	補	2016年度交通事故医療特定課題研究助成(日本損害保険協会)
79	閉塞性黄疸における柴苓湯の肝繊維化抑制とアクアポリン発現からみたメカニズム解析	八木 実	小児外科	800,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
80	世界初の新規樹立細胞株による基礎的研究: 乳房外ペーজেット病の抗男性ホルモン療法	辛島 正志	皮膚科	700,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
81	線状IgA水疱性皮膚症の自己抗原の多様性に起因する病態の解明	大畑 千佳	皮膚科	1,200,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
82	自己免疫性水疱症における新規cDNAを用いた診断システムの確立	石井 文人	皮膚科	1,200,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
83	皮膚T細胞性リンパ腫における腫瘍に必要な代謝経路とアポトーシス抵抗性の機序の解明	橋川 恵子	皮膚科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
84	皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	大畑 千佳	皮膚科	600,000	補	難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)
85	CLEM-FIB/SEMを用いた接触皮膚炎惹起相におけるiSALTの三次元構築	夏秋 洋平	皮膚科	1,600,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
86	粘膜類天疱瘡患者血中抗ラミニン332抗体のエピトープ解析	古賀 浩嗣	皮膚科	1,400,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
87	天疱瘡におけるデスマコリン抗体の病的意義の解明	古賀 浩嗣	皮膚科	1,000,000	補	基礎医学研究費(資生堂寄付)
88	標準治療抵抗性尿路上皮がん患者に対するペプチドワクチン療法のバイオマーカー検索	末金 茂高	泌尿器科	700,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
89	排尿筋層に存在する間質細胞の超微形態三次元再構築法による機能解析	林 篤正	泌尿器科	1,400,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
90	FIB/SEMを用いた前立腺上皮細胞の超微細的な解析	上村 慶一郎	泌尿器科	1,000,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
91	リンパ節転移リスクを有する子宮体がんに対する標準的リンパ節郭清確立のための多施設共同臨床試験	牛嶋 公生	産婦人科	500,000	委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
92	3D高解像マノメトリーを用いた食道入口部機能不全に対する低侵襲手術法の確立	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	600,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
93	口腔粘膜上皮シートを用いた経口的移植手技による傷害声帯治療法の確立	深堀 光緒子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	500,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
94	移植後安定性を考慮した馬蹄形軟骨再生による気管再建法の確立	末吉 慎太郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	600,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
95	脂肪幹細胞を用いた声帯再生の基礎研究	梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	100,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
96	ヒト声帯粘膜の幹細胞システムの解明	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	130,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
97	国際標準化のための横隔腫瘍の画像診断を用いた横隔区分法と病気分類の提案と評価	藤本 公則	放射線科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
98	医療画像-感覚情報変換によるマルチモーダル多感覚情報補助画像診断法の研究開発	田上 秀一	放射線科	260,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
99	胸腺上皮性腫瘍のイメージングバイオマーカーの確立	角 明子	放射線科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
100	IL-22BP依存性制御性B細胞がアプスコパル効果に及ぼす影響の検討	氷室 秀知	放射線科	780,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
101	チロシキナーゼ阻害分子 Sprouty による口腔癌リンパ節転移制御機構の解明	武富 孝治	歯科口腔医療センター	1,200,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
102	口腔扁平上皮癌における血中循環腫瘍細胞(CTC)の臨床的意義とプロファイル解析	中村 守厳	歯科口腔医療センター	500,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
103	脱灰象牙質を用いた骨再生とその界面組織の3次元の微細構造解析	田上 隆一郎	歯科口腔医療センター	900,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)

104	過分極誘発陽イオンチャンネルを標的とした慢性疼痛の遺伝子治療法の開発	大下 健輔	麻酔科	1,000,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
105	エネルギー代謝と慢性炎症を制御するミトコンドリアダイナミクス	野村 政壽	内分泌代謝内科	1,224,369	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
106	低酸素で誘発されるRBPJ/MAML3-SMO活性化経路の解析と肺癌治療への応用	野村 政壽	内分泌代謝内科	150,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
107	患者レジストリを活用した難治性クッシング症候群及びサブクリニカルクッシング症候群の病態解明と11β-HSD1阻害剤の臨床開発	野村 政壽	内分泌代謝内科	10,035,592	委	臨床研究・治験推進研究事業 (AMED)
108	概日リズムリセット機構におけるグレリン、ニューロメジンUの新たな役割	田尻 祐司	内分泌代謝内科	900,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
109	社会機能/QOL改善と出口戦略を見据えた睡眠障害のクリニカルパスの開発	内村 直尚	神経精神科	1,000,000	補	精神・神経疾患研究開発費(国立精神・神経医療研究センター)
110	精神生理学的多面的評価による高齢者及び認知症患者の運転安全性評価	小路 純央	神経精神科	2,400,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
111	神経症圏患者への短期心理教育治療パッケージの効果検証	大江 美佐里	神経精神科	300,000	補	平成29年度研究活動助成金((公財)メンタルヘルス岡本記念財団)
112	ドーパミンD1シグナルを抑制して薬物乱用を制御する治療法開発	上松 謙	神経精神科	800,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
113	内科診療所受診者における自殺予防に関する疫学研究	藤枝 恵	神経精神科	1,245,502	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
114	自覚的認識に注目した嗜癮問題の包括的理解と臨床的介入に関する研究	石田 哲也	神経精神科	2,800,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)

計114件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yasumoto, M, Sakamoto, E, Ogasawara, S, et al.	消化器内科	Muscle RAS oncogene homolog (MRAS) recurrent mutation in Borrmann type IV gastric cancer	Cancer Med, 2017, 6:235-244.	Original Article
2	宮本直樹	臨床検査部	Integration of DPC and clinical microbiological data in Japan reveals importance of confirming a negative follow-up blood culture in patients with MRSA bacteremia	J Infect Chemother 23 (2017) 687-691	Original Article
3	Honda S, Nohtomi A, Machidori K, et al.	画像診断センター	Shape distortion of 128l B – spectrum observed by a self-activated CsI(Tl) scintillator for high-sensitivity neutron measurements	Methods in Physics Research Section A: Accelerators, Spectrometers, Detectors and Associated Equipment, Volume 871, 1 November 2017, Pages 148-153.	Original Article
4	Hashida R, Takano Y, Matsuse H, et al.	整形外科	Electrical Stimulation of the Antagonist Muscle during Cycling Exercise Interval Training Improves Oxygen Uptake and Muscle Strength.	J Strength Cond Res. 2017 Dec 20 [Epub ahead of print]	Original Article
5	Sasaki KI, Matsuse H, Akimoto R, et al.	心臓・血管内科	Cardiac cycle-synchronized electrical muscle stimulator for lower limb training with the potential to reduce the heart's pumping workload.	PLoS One. 2017 Nov 8;12	Original Article
6	Tagawa Y, Yamamoto N, Omoto M, et al.	整形外科	Simulation of oxygen uptake and leg joint reaction force during ergometer exercise under altered gravity.	Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc. 2017 Jul;2017:1901-1904	Original Article
7	Hashida R, Kawaguchi T, Bekki M, et al.	整形外科	Aerobic vs. resistance exercise in non-alcoholic fatty liver disease: A systematic review.	J Hepatol. 2017 Jan;66(1):142-152.	Review
8	Matsuse H, Hashida R, Takano Y, et al.	整形外科(リハビリテーション部)	Walking Exercise Simultaneously Combined With Neuromuscular Electrical Stimulation of Antagonists Resistance Improved Muscle Strength, Physical Function, and Knee Pain in Symptomatic Knee Osteoarthritis: A Single-Arm Study.	J Strength Cond Res. 2017 Jan;31(1):171-180.	Original Article
9	Koya S, Kawaguchi T, Hashida R, et al.	整形外科	Effects of in-hospital exercise on liver function, physical ability, and muscle mass during treatment of hepatoma in patients with chronic liver disease.	Hepatol Res. 2017 Mar;47(3):E22-E34.	Original Article
10	Yoshida T, Akiba J, Matsui T, et al.	消化器内科	Pigment Epithelium-Derived Factor (PEDF) Prevents Hepatic Fat Storage Inflammation, and Fibrosis in Dietary Steatohepatitis of Mice	Dig Dis Sci. 2017 Apr; 62: 1527-1536	Original Article
11	Yoshioka S, Takedatsu H, Fukunaga S, et al.	消化器内科	Study to determine guidelines for pediatric colonoscopy	World J Gastroenterol. 2017 Aug; 23: 5773-5779	Original Article
12	Nakano M, Niizeki T, Nagamatsu H, et al.	消化器内科	Clinical effects and safety of intra-arterial infusion therapy of cisplatin suspension in lipiodol combined with 5-fluorouracil versus sorafenib, for advanced hepatocellular carcinoma with macroscopic vascular invasion without extra-hepatic spread: A prospective cohort study	Mol Clin Oncol. 2017 Dec; 7: 1013-1020	Original Article
13	Abe M, Yoshida T, Akiba J, et al.	消化器内科	STAT3 deficiency prevents hepatocarcinogenesis and promotes biliary proliferation in thioacetamide-induced liver injury	World J Gastroenterology. 2017 Oct; 23: 6833-6844	Original Article

14	Ikezono Y, Koga H, Akiba J, et al.	消化器内科	Pancreatic neuroendocrine tumors and EMT behavior are driven by the CSC marker DCLK1	Mol Cancer Res. 2017 Jun; 15: 744-752,	Original Article
15	Arinaga-Hino T, Ide T, Miyajima I, et al.	消化器内科	Risk of malignancies in autoimmune hepatitis type 1 patients with a long-term follow-up in Japan	Hepatology Res. 2018 Feb; 48: E222-E231	Original Article
16	Fukunaga S, Kuwaki K, Mitsuyama K, et al.	消化器内科	Detection of calprotectin in inflammatory bowel disease: Fecal and serum levels and immunohistochemical localization	Int J Mol Med. 2018 Jan; 41: 107-118	Original Article
17	Yamauchi R, Kominato K, Mitsuyama K, et al.	消化器内科	Stereomicroscopic features of colitis-associated tumors in mice: Evaluation of pit pattern	Oncol Lett. 2017 Sep; 14: 3675-3682	Original Article
18	Nakao E, Adachi H, Enomoto M, et al.	心臓・血管内科	Elevated plasma transforming growth factor β 1 levels predict the development of hypertension in normotensives: The 14-year follow-up study.	Am J Hypertens. 2017 Aug; 30(8):808-14.	Original Article
19	Kono S, Adachi H, Enomoto M, et al.	心臓・血管内科	Impact of cystatin C and microalbuminuria on cognitive impairment in the population of community-dwelling Japanese.	Atherosclerosis. 2017 Oct; 265:71-7.	Original Article
20	Chibana H, Kajimoto H, Ueno T, et al.	心臓・血管内科	Interleukin-1 β is associated with coronary endothelial dysfunction in patients with mTOR-inhibitor-eluting stent implantation.	Heart Vessels. 2017 Jul; 32(7):823-32.	Original Article
21	Chibana H, Tahara N, Itaya N, et al.	心臓・血管内科	Pulmonary artery dysfunction in chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2017 Nov;17:30-2.	Original Article
22	Tahara A, Tahara N, Yamagishi SI, et al.	心臓・血管内科	Ratio of serum levels of AGEs to soluble RAGE is correlated with trimethylamine-N-oxide in non-diabetic subjects.	Int J Food Sci Nutr. 2017 Dec;68(8):1013-20.	Original Article
23	Nohara-Shitama Y, Adachi H, Enomoto M, et al.	心臓・血管内科	Twenty-four-hour urinary potassium excretion, but not sodium excretion, is associated with all-cause mortality in a general population.	J Am Heart Assoc 2018 Jan オンライン	Original Article
24	Ohno-Urabe S, Aoki H, Nishihara M, et al.	心臓・血管内科	Role of macrophage Socs3 in the pathogenesis of aortic dissection.	J Am Heart Assoc 2018 Jan オンライン	Original Article
25	Nakamura S, Adachi H, Enomoto M, et al.	総合健診センター	Trends in coronary risk factors and electrocardiogram findings from 1977 to 2009 with 10-year mortality in Japanese elderly males - The Tanushimaru Study	J Cardiol. 2017 Oct;70(4):353-8.	Original Article
26	Nishihara M, Aoki H, Ohno S, et al.	高度救命救急センター	The role of IL-6 in pathogenesis of abdominal aortic aneurysm in mice.	PLOS ONE. 2017 Oct オンライン	Original Article
27	Nakamura T, Ogo T, Tahara N, et al.	心臓・血管内科	Thalidomide for hereditary hemorrhagic telangiectasia with pulmonary arterial hypertension.	Circ J. 2018 Mar; 82(4):1205-7.	Case report
28	Nakamura T, Tahara N, Tahara A, et al.	心臓・血管内科	Myocardial metabolic improvement prior to electrocardiographic or volumetric changes of the right ventricle in pulmonary arterial hypertension	J Nucl Cardiol. 2018 Feb;25(1):358-9.	Case report
29	Nakamura T, Tahara N, Tahara A, et al.	心臓・血管内科	Right ventricular workload assessed by FDG-PET in a patient with residual VSD and infundibular pulmonary stenosis after repair of tetralogy of Fallot.	J Nucl Cardiol. 2018 Jun;25(3):1053-5.	Case report
30	Sasaki K, Chibana H, Ueno T, et al.	心臓・血管内科	Successful endovascular treatment of aortoiliac bifurcation stenosis using an empirically based T and protrude-stenting with self- and balloon-expandable stents.	Kurume Med J. 2017 Apr;63(1.2):39-43.	Case report
31	Okabe R, Okamura H, Egami C, et al.	小児科	Increased cortisol awakening response after completing the summer treatment program in children with ADHD.	Brain Dev. 2017 Aug;39(7):583-592	Original Article
32	Yoshida M, Asagiri K, Fukahori S, et al.	小児科	The utility of a phase angle analysis in patients with severe motor and intellectual disabilities.	Brain Dev. 2017 Aug;39(7):557-563	Original Article

33	Hashizume N, Fukahori S, Asagiri K, et al.	小児科	The characteristics of salivary pepsin in patients with severe motor and intellectual disabilities.	Brain Dev. 2017 Sep;39(8):703-709	Original Article
34	Suzuki K, Okumura Y, Kita Y, et al.	小児科	Excessive hemodynamic activity in the superior frontal cortex during the flanker task in children with attention deficit hyperactivity disorder.	Neuroreport. 2017 Sep 6;28(13):828-832	Original Article
35	Kida H, Takahashi T, Nakamura Y, et al.	小児科	Pathogenesis of lethal aspiration pneumonia in Mecp2-null mouse model for Rett syndrome.	Sci Rep. 2017 Sep 20;7(1):12032	Original Article
36	Yasumura A, Omori M, Fukuda A, et al.	小児科	Applied machine learning method to predict children with ADHD using prefrontal cortex activity: A multicenter study in Japan.	J Atten Disord. 2017 Nov 1:1087054717740632	Original Article
37	Ichikawa H, Mikami K, Okada T, et al.	小児科	Aripiprazole in the treatment of irritability in children and adolescents with autism spectrum disorder in Japan: A randomized, double-blind, placebo-controlled study.	Child Psychiatry Hum Dev. 2017 Oct;48(5):796-806	Original Article
38	Mizuochi T, Takano T, Yanagi T, et al.	小児科	Epidemiologic features of 348 children with hepatitis C virus infection over a 30-year period: a nationwide survey in Japan.	J Gastroenterol. 2018 Mar;53(3):419-426.	Original Article
39	Eda K, Mizuochi T, Iwama I, et al.	小児科	Zinc monotherapy for young children with presymptomatic Wilson disease: A multicenter study in Japan.	J Gastroenterol Hepatol. 2018 Jan;33(1):264-269.	Original Article
40	Midorikawa H, Mizuochi T, Okada JI, et al.	小児科	Disparate clinical findings in monozygotic twins with neonatal hemochromatosis.	Pediatr Int. 2017 Nov;59(11):1215-1216.	Case report
41	Tanaka Y, Iwata S, Kinoshita M, et al.	小児科	Insufficient Humidification of Respiratory Gases in Patients Who Are Undergoing Therapeutic Hypothermia at a Paediatric and Adult Intensive Care Unit.	Can Respir J.Epub 2017 Apr 20.	Original Article
42	Iwata O, Kawase A, Iwai M	小児科	Evacuation of a Tertiary Neonatal Centre: Lessons from the 2016 Kumamoto Earthquakes.	Neonatology. 2017;112(1):92-96.	Original Article
43	Iwata S, Fujita F, Kinoshita M, et al.	小児科	Dependence of nighttime sleep duration in one-month-old infants on alterations in natural and artificial photoperiod	Sci Rep. 2017 Mar 17;7:44749.	Original Article
44	Tsuda K, Mukai T, Iwata S, et al.	小児科	Baby Cooling Registry of Japan Collaboration Team. Therapeutic hypothermia for neonatal encephalopathy: a report from the first 3 years of the Baby Cooling Registry of Japan.	Sci Rep. 2017 Jan 4;7:39508.	Original Article
45	Matsuo Y, Mizuochi T, Miho M, et al.	小児科	Factor X Deficiency with Heterozygous Mutations of Novel p.G435S and Known p.G244R in a Patient Presenting with Severe Umbilical Hemorrhage.	Kurume Med J. 2017 Apr 13;63(1.2):23-28. doi:10.2739/kurumemedj	Case report
46	Suda M, Nagamitsu S, Kinoshita M, et al.	小児科	A child with anorexia nervosa presenting with severe infection with cytopenia and hemophagocytosis: a case report.	Biopsychosoc Med. 2017 Sep 5;11:24. doi: 10.1186/ s13030-017-0108-6	Case report
47	Tomoya S, Yusuke T, et al	外科	Significance of CD47 expression in gastric cancer	ONCOLOGYLETTERS;14-1,801-809,2017	Original Article
48	Yokoyama S, Mitsuoka M, et al	外科	Survival after initial lung metastasectomy for metastatic colorectal cancer in the modern chemotherapeutic era	MBC Surg;17(54)online	Original Article

49	Tajiri K, Sudou T, et al	外科	Clinicopathological and Corresponding Genetic Features of Colorectal Signet Ring Cell Carcinoma	ANTICANCER RESEARCH;37:3817-3823,2017	Original Article
50	Tanigawa M, Nakayama M, et al	外科	Insulinoma-associated protein 1 (INSM1) is a useful marker for pancreatic neuroendocrine tumor	MedMolMorphol.2018Mar;51(1):32-40.2017Aug28	Original Article
51	Kenji F, Gou Y, et al	外科	Metastatic Pattern of Stage IV Colorectal Cancer with High-Frequency Microsatellite Instability as a Prognostic Factor	ANTICANCER RESEARCH;37:23-248 2017	Original Article
52	Kenji F, Gou Y, et al	外科	Predictive model for high-frequency microsatellite instability in colorectal cancer patients over 50 years of age	Cancer Medicine;1-9(Online)2017	Original Article
53	Fukutomi S, Nomura Y, Nakashima O, et al	外科	Evaluation of hepatocellular carcinoma spread via the portal system y 3-dimensional mapping	HPB. 2017 Dec; 1119-1125	Original Article
54	Matsuda K, Miyoshi H, Hiraoka K, et al	整形外科	Clinicopathological and prognostic value of transforming acidic coiled-coil-containing protein 3 (TACC3) expression in soft tissue sarcomas.	PLoS One. 2017 Nov;12(11)	Original Article
55	Araki N, Chuman H, Matsunobu T, et al	整形外科	Factors associated with the decision of operative procedure for proximal femoral bone metastasis: Questionnaire survey to institutions participating the Bone and Soft Tissue Tumor Study Group of the Japan Clinical Oncology Group.	Global Spine J.2017 Sep;7(6):560-566	Original Article
56	Kobayashi K, Imagama S, Ando K, et al	整形外科	Risk Factors for Delirium After Spine Surgery in Extremely Elderly Patients Aged 80 Years or Older and Review of the Literature: Japan Association of Spine Surgeons with Ambition Multicenter Study.	Am J Sports Med.2017 Dec;45(14):3322-3330	Original Article
57	Noguchi K, Aoki T, Sakamoto R, et al.	脳神経外科	Bilateral internal carotid artery aneurysms at the subpetrosal portion with unilateral lower cranial nerve palsy: Review and consideration of surgical strategy.	Journal of stroke & cerebrovascular diseases. 26(4): e55-e59, 2017	Case report
58	Komatani H, Okamoto Y, Aoki T, et al.	脳神経外科	Long-term prognosis after extracranial-intracranial bypass surgery for symptomatic cerebrovascular occlusive disease.	Kurume Medical Journal. 64(1-2): 1-4, 2017	Original Article
59	Morioka M, Orito K	脳神経外科	Management of spontaneous intracerebral hematoma.	Neurol Med Chir (Tokyo). 57(11): 563-574, 2017	Review
60	Negoto T, Terachi S, Baba Y, et al.	脳神経外科	Symptomatic brainstem cavernoma of elderly patients: timing and strategy of surgical treatment: two case reports and review of the literature.	World Neurosurg. 111 Mar: 227-234, 2018	Case report
61	Miyagi N, Doi R, Kuramoto T, et al.	脳神経外科	Double pituitary adenomas associated with persistent trigeminal artery: a rare case report and the review of the literature.	Neurosurg Rev. 41(1) Jan: 341-345, 2018	Case report
62	Orito K, Hirohata M, Nakamura Y, et al.	脳神経外科	Predictive value of leakage signs for pure brain contusional hematoma expansion.	J Neurotrauma. 35(5) Mar: 760-766, 2018	Original Article
63	Takeshige N, Eto T, Nakashima S, et al.	脳神経外科	Rare case of a rapidly enlarging symptomatic arachnoid cyst of the posterior fossa in an infant: A case report and review of the literature.	Surg Neurol Int. 7 Mar; 9:57, 2018	Case report
64	Motomu Yoshida, Kimio Asagiri, Suguru Fukahori, et al	小児外科	The utility of a phase angle analysis in patients with severe motor and intellectual disabilities.	Brain & Development 2017 Aug: 557-563	Original Article
65	Naoki Hashizume, Suguru Fukahori, Kimio Asagiri, et al.	小児外科	A baseline impedance analysis in neurologically impaired children: A potent parameter for estimating the condition of the esophageal mucosa	Brain & Development 2017 Aug: 703-709	Original Article

66	Naoki Hashizume, Minoru Yagi, Kosuke Ushijima, et al.	小児外科	Pharmacotherapy for pediatric chronic intestinal pseudo-obstruction: Nationwide survey in Japan	Pediatr Int. 2017 Apr; 467-472	Original Article
67	Ishii S, Fukahori S, Asagiri K, et al.	小児外科	Severe Delayed Gastric Emptying Induces Non-acid Reflux up to Proximal Esophagus in Neurologically Impaired Patients	J Neurogastroenterol Motil. 2017;Apr; 533-540	Original Article
68	Kosuke ueda, Shigetaka Suekane, Kiyooki Nishihara Hiroaki, 他	泌尿器科	Early primary renal tumor response predicts clinical outcome in patients with primary unresectable renal cell carcinoma with synchronous distant metastasis receiving molecularly targeted therapies	Molecular and Clinical Oncology 7: 205-210, 2017	Original Article
69	Shigetaka Suekane, Kosuke Ueda, Kiyooki Nishihara, et al.	泌尿器科	Personalized peptide vaccination as second-line treatment for metastatic upper tract urothelial carcinoma	Cancer Sci 108:2430-2437, 2017	Original Article
70	Noguchi Masanori, Koga Noriko, Igawa Tsukasa, et al.	泌尿器科	Clinical development of immunotherapy for prostate cancer	International Journal of Urology, 24(9), 675-680, 2017	Original Article
71	Kanazawa E, Nakashima A, Yonemoto K, et al.	産婦人科	Injury to the endometrium prior to the frozen-thawed embryo transfer cycle improves pregnancy rates in patients with repeated implantation failure	J Obstet Gynecol Res.2017;43(1):128-34	Original Article
72	Yokomine M, Matsueda S, Kawano K, et al.	産婦人科	Enhancement of humoral and cell mediated immune response to HPV16 L1-derived peptides subsequent to vaccination with prophylactic bivalent HPV L1 virus-like particle vaccine in healthy females	Exp Ther Med.2017;13(4):1500-5	Original Article
73	Nishio S, Takekuma M, Takeuchi S, et al.	産婦人科	Phase 1 study of veliparib with carboplatin and weekly paclitaxel in Japanese patients with newly diagnosed ovarian cancer	Cancer Sci.2017 Nov;108(11):2213-20	Original Article
74	Julia Toman, Scott von Larson, Hirohito Umeno, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	HPV-positive oropharyngeal cancer via p16 immunohistochemistry in Japan	Ann Otol Rhinol Laryngol, 2017	Original Article
75	Takeharu Ono, Koichi Azuma, Hirohito Umeno, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Association between PD-L1 expression combined with tumor-infiltrating lymphocytes and the prognosis of patients with advanced hypopharyngeal squamous cell carcinoma	Oncotarget, 2017	Original Article
76	Takeharu Ono, Norimitsu Tanaka, Hirohito Umeno, Hirohito Umeno, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Treatment outcomes of locally advanced squamous cell carcinoma of the maxillary sinus treated with chemoradioselection using superselective intra-arterial cisplatin and concomitant radiation: Implications for prognostic factors	Journal of Cranio-Maxillo-Facial Surgery, 2017	Original Article
77	Shun-ichi Chitose, Kiminori Sato, Hirohito Umeno, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Recurrent laryngeal nerve regeneration using an oriented collagen scaffold containing schwann cells	Laryngoscope, 2017	Original Article
78	Shun-ichi Chitose, Kiminori Sato, Hirohito Umeno, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Endoscopic surgical technique for benign fibrotic strictures of the upper esophageal sphincter	Digestive Endoscopy, 2017	Original Article
79	Kiminori Sato	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	The macula flava of the human vocal fold as a stem cell microenvironment	Adv Exp Med Biol, 2017	Original Article
80	Koganemaru M, Tanaka N, Nagata S, et al.	放射線科	Internal Coil Packing for Mesh Occlusion Device.	JVIR, 28(8):1199-1201, 2017	Case report

81	Sumi A, Fujimoto K.	放射線科	Editorial on "Distribution of malignant lymphomas in the anterior mediastinum: a single-institution study of 76 cases in Japan, 1997-2016."	Mediastinum, 2:13, doi:10.21037/med.2018.03.02, 2018	Review
82	AKIHIRO KOBA,RYUICHIRO TANOUE,SHOGO KIKUTA, et al.	歯科口腔医療センター	The Usefulness of Piezoelectric Surgery in Sagittal Split Ramus Osteotomy	The Kurume Medical Journal 64(3) P.57-63,2017	Original Article
83	J.Iwanaga, S.Kikuta, M.Nakamura, et al.	歯科口腔医療センター	Intraoral vertico-sagittal ramus osteotomy:modification of the L-shaped osteotomy	International Journal of Oral & Maxillofacial Surgery 46(12)P.1552-1556,2017	Original Article
84	Takaharu Taketomi,Keita Todoroki, Kinuko Ogata,et al.	歯科口腔医療センター	A case of the pleomorphic adenoma of minor salivary gland that resulted in maxillary metastasis 20 years after primary tumor resection	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 29(2)P.136-141,2017	Case report
85	Iwanaga J,Watanabe K, Saga, T,et al.	歯科口腔医療センター	A novel method for observation of the mandibular foramen: application to a better understanding of dental anatomy	The Anatomical Record 300(10)P.1875-1880,2017	Original Article
86	Iwanaga J,Watanabe K, Saga T,et al.	歯科口腔医療センター	Radiological and microsurgical anatomy for variation of the mandible: comparative study of human and Macaca fascicularis	The Anatomical Record 300(8)P.1464-1471,2017	Original Article
87	Iwanaga J,Kamura Y, Tanaka T,et al.	歯科口腔医療センター	A New Space of the Face: The bucco-mandibular space	Clinical Anatomy 30(7)P.958-962,2017	Original Article
88	Iwanaga J,Watanabe K, Kusakawa J,et al.	歯科口腔医療センター	A Novel Treatment for Keratitis Sicca (Dry Eye): Anatomical Feasibility Study	Clinical Anatomy 30(6)P.839-843,2017	Original Article
89	Iwanaga J,Tabira Y, Fisahn C,et al.	歯科口腔医療センター	Unusual Muscle of the Anterior Neck: Cadaveric Findings with Surgical Applications	Anatomy & Cell Biology 50(3)P.239-241.2017	Original Article
90	Iwanaga J,Watanabe K, Saga T,et al.	歯科口腔医療センター	Undetected Small Accessory Mental Foramina Using Cone-Beam Computed Tomography	Cureus 9(5),e1210,2017	Original Article
91	Iwanaga J,Fisahn C, Watanabe K,et al.	歯科口腔医療センター	Parotid Branches of the Auriculotemporal Nerve: An Anatomical Study with Implications for Frey Syndrome	Journal of Craniofacial Surgery 28(1)P.262-264,2017	Original Article
92	Kozasa Y, Nakashima N, Ito M, et al.	麻酔科	NCN4 pacemaker channels attenuate the parasympathetic response and stabilize the spontaneous firing of the sinoatrial node	The Journal of Physiology 2018 Jan; 596:809-825	Original Article
93	Yaita K, Oyama N, Sakai Y, et al.	感染制御科	Typhoid fever: a rare cause of relative bradycardia in Japan.	J Gen Fam Med. 2017 Oct; 18: 317-318	Letter
94	Yaita K, Akiyoshi H, Nakae I, et al.	感染制御科	Disseminated Mycobacterium intracellulare infection with multiple intramuscular abscesses on extremities in a woman with chronic corticosteroid therapy.	J Gen Fam Med. 2017 Dec; 18: 425-427	Case report

計94件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	専攻者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kozasa Y, Nakashima N, Ito M, et al.	麻酔科	HCN4 pacemaker channels attenuate the parasympathetic response and stabilize the spontaneous firing of the sinoatrial node.	J Physiol, 2018 Mar.; 596(5): 809-825	Original Article
2	Nomura, Y. Nakashima, O. Akiba, J, et al.	外科	Clinicopathological features of neoplasms with neuroendocrine differentiation occurring in the liver	J Clin Pathol, 2017, 70:563- 570	Original Article
3	川原 隆一、新井 相一郎、小嶋 聡 生、他	外科	3Dプリンターを用いた肝臓模型の作 製ならびに手術ナビゲーション	手術. 2017; 71: 189-196	Original Article
4	日永田 哲子	看護部	A大学病院手術部における診療科 担当看護師の役割 フォーカスグ ループインタビューを用いて	日本手術看護学会誌.2017年6 月;13(1):3-7	Original Article
5	杉島 寛	看護部	経気管挿管チューブ固定法から みた強固性および安全性の強化に 関する検討	九州救急医学雑誌.2017年12 月;16(1):18-22	Original Article
6	林 咲希	看護部	消化器・肝疾患患者におけるサルコ ペニアのアセスメント: Asian Working Group For Sarcopenia基準と The Japan Society of Hepatology基準の 比較検討	栄養・2018.03;3巻1号;59-61	Original Article
7	高村 美紀	看護部	集団精神療法における看護師の不安 に関する検討	日本看護学会論文集:精神看護 47号, 2017.5	Original Article
8	牛嶋 浩子	看護部	慢性期患者のQOL向上に関する看護 観を構成する要素とその関連性の 検討	第48回日本看護学会論文集 慢性期看護 2018年3月5日発行	Original Article
9	佐々木 佐千栄	看護部	SICUに配属された新人看護師の教育 ・支援体制の検討	日本看護学会論文集:看護管 理47号, 2017.5	Original Article
10	Fukunaga S, Takedatsu H, Muta H, et al.	消化器内科	An unusual cause of colonic stricture with polyps	Gut. 2017 Aug; 66: 1495	Case report
11	Okabe Y, Ushijima T, Yasunaga M, et al.	消化器内科	A rare case of sarcoidosis in accessory spleen.	Gastrointest Endosc. 2017 Nov; 86: 918-919	Case report
12	Fukunaga S, Takedatsu H, Mitsuyama K, et al.	消化器内科	A Rare Case of Ulcerative Colitis with Neurofibromatosis Type 1	Kurume Med J. 2018 Feb; 64; 25-27	Case report
13	Yasumoto M, Okabe Y, Ishikawa H, et al.	消化器内科	A case of gastric wall implanation 22 months after pancreatic cancer resection	Endosc Ultrasound. 2018 Feb; 7: 64-66	Case report
14	Kawaguchi T, Ide T, Koga T, et al.	消化器内科	Rapidly growing hepatocellular carcinoma after direct-acting antiviral treatment of chronic hepatitis C	Clin J Gastroenterol. 2018 Feb; 11: 69-74	Case report
15	Yasumoto M, Okabe Y, Sugiyama G, et al.	消化器内科	A case of pancreatic neuroendocrine tumor with multiple cystic components of various sizes	Clin J Gastroenterol. 2018 Feb; 11: 87-91	Case report
16	Sakaue T, Tominaga M, Niizeki T, et al.	消化器内科	Successful treatment of a patient with chyluria due to lymphangiomyomatosis using sirolimus	Respir Med Case Rep. 2018 Jan; 23: 86-89	Case report

17	Ushijima T, Okabe Y, Ishida Y, et al.	消化器内科	A case of intragastric wall abscess developing after EUS-FNA in a patient with pancreatic body cancer	Gastrointestinal Endosc. 2017 May; 85: 1097-1098	Case report
18	Kawaguchi T, Konishi M, Kato A, et al.	消化器内科	Updating the neuropsychological test system in Japan for the elderly and in a modern touch screen tablet society by resetting the cut-off values	Hepatol Res. 2017 Nov; 47: 1335-1339	Others
19	Tahara A, Tahara N, Yamagishi SI, et al.	腎臓内科	Ratio of serum levels of AGEs to soluble RAGE is correlated with trimethylamine-N-oxide in non-diabetic subjects.	Int J Food Sci Nutr. 2017;23:1-8	Case report
20	Matsui T, Higashimoto Y, Nishino Y, et al.	腎臓内科	RAGE-Aptamer Blocks the Development and Progression of Experimental Diabetic Nephropathy.	Diabetes. 2017;66,6:1683-1695	Case report
21	Tashiro K, Kaida Y, Yamagishi SI, et al.	腎臓内科	L-Carnitine Supplementation Improves Self-Rating Depression Scale Scores in Uremic Male Patients Undergoing Hemodialysis.	Lett Drug Des Discov.2017;14,6:737-742	Case report
22	Yokoro M, Nakayama Y, Yamagishi SI, et al.	腎臓内科	Asymmetric Dimethylarginine Contributes to the Impaired Response to Erythropoietin in CKD-Anemia.	J Am Soc Nephrol. 28,2670-2680,2017	Case report
23	Shimizu M, Furuichi K, Toyama T, et al.	腎臓内科	Decline in estimated glomerular filtration rate is associated with risk of end-stage renal disease in type 2 diabetes with macroalbuminuria : an observational study from JDNCS.	Clin Exp Nephrol. 2017;22:377-387	Case report
24	Fukami K	腎臓内科	慢性腎臓病治療Up-to-Date	別府市医師会,186:28-29,2017	Review
25	Fukami K	腎臓内科	CKD診療における診断・治療のコツ～難病疾患に対する新たな治療も含めて～	小倉内科医会誌.2017;39:91	Review
26	Kodama G,Kaida Y,Fukami K	腎臓内科	ステロイド療法の効果的な使い方腎疾患	月刊臨牀と研究.201794:32-38	Review
27	Fukami K	腎臓内科	CKD管理と高尿酸血症	八女筑後医報,383:5-10,2017	Review
28	Fukami K	腎臓内科	腎臓病の診断・治療Up-to-Date	久留米醫學會雜誌.2017;80:175-183	Review
29	Minezaki T,Kaida Y,Fukami K	腎臓内科	低血糖	腎臓内科・泌尿器科.2017;6:393-398	Review
30	Suda M, Nagamitsu S, Kinoshita M, et al.	小児科	A child with anorexia nervosa presenting with severe infection with cytopenia and hemophagocytosis: a case report.	Biopsychosoc Med . 2017 Sep 5;11:24	Case report
31	Kawasaki Y, Kuki I, Ehara E, et al.	小児科	Three cases of KCNT1 mutations: malignant migrating partial seizures in infancy with massive systemic to pulmonary collateral arteries.	J Pediatr. 2017 Dec;191:270-274	Case report
32	Nishioka J, Shima H, Fukami M, et al.	小児科	The first Japanese case of central precocious puberty with a novel MKRN3 mutation	Hum Genome Var	Case report
33	Ushijima K, Fukami M, Ayabe, et al.	小児科	Comprehensive screening for monogenic diabetes in 89 Japanese children with insulin-requiring antibody-negative type 1 diabetes	Pediatr Diabetes	Case report
34	志波 直人	整形外科	【特集 医工、産学連携によるリハビリテーション】 筋骨格系廃用萎縮予防装置の開発	MB Med Reha. 2017; 205:34-39	Original Article

35	大本 将之、志波直人	整形外科	【特集 先端機器とリハビリテーション】 宇宙医学とリハビリテーションへの先端機器の応用	Jpn J Rehabil Med. 2017; 54(1):27-30	Original Article
36	山田 圭	整形外科	骨折治療の最前線 脊椎骨折 胸腰椎	Journal of Clinical Rehabilitation. 2017;26(7):682-692	Original Article
37	橋田 竜騎、川口巧、志波 直人、他	整形外科	肝疾患と栄養・サルコペニア NAFLD (非アルコール性脂肪性肝疾患)の栄養療法 NASH/NAFLD に対する食事・運動療法の効果	臨床消化器内科. 2017;32(5):581-587	Original Article
38	白濱 正博	整形外科	【大腿骨転子部骨折、髓内釘治療の創意工夫】 2本打ち髓内釘による治療とさらなる挑戦	MB Orthop. 2017; 30(11):33-43	Original Article
39	佐藤 公昭、山田圭、志波 直人	整形外科	骨・脊椎感染症	臨床と微生物. 2017;44(2):141-146	Original Article
40	佐藤 公昭、山田圭、井上 英豪、他	整形外科	腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡下手術	関節外科. 2017;36(7):726-731	Original Article
41	原 光司、平岡弘二、濱田 哲矢、他	整形外科	腸骨に発生したDedifferentiated peripheral chondrosarcomaの1例	整形外科と災害外科. 2017;66(1):170-174	Original Article
42	山田 圭	整形外科	高齢者の脊柱変形Up to Date 頸部起立筋、腰背筋とサルコペニア	脊椎脊髄. 2017;30(4):309-316	Original Article
43	山田 圭、佐藤公昭、佐々木威治、他	整形外科	手術室入室時における一足制が脊椎術後感染に与える影響の検討	整形外科と災害外科. 2017;66(4):722-726	Original Article
44	山田 圭、松山幸弘、川端茂徳、他	整形外科	脊柱変形手術による神経障害機序の検討	J Spine Res. 2017;8(9):1493-1501	Original Article
45	濱田 哲矢、平岡弘二、庄田 孝則、他	整形外科	駆血帯使用が困難な部位の骨巨細胞腫の治療	日本整形外科学会雑誌. 2017;91(6):1425	Original Article
46	松浦 充洋、坂井健介、神保 幸太郎、他	整形外科	左手三角骨体部偽関節の1例	骨折. 2017;39(3):488-491	Original Article
47	松原 庸勝	整形外科	下腿骨幹部開放骨折に対する二期的手術の有効性の検討	骨折. 2017;39(4):893-897	Original Article
48	塚本 祐也、神保幸太郎、吉田 健治、他	整形外科	大腿骨近位部骨折における深部静脈血栓症(DVT)の術前評価の検討	整形外科と災害外科. 2017;66(2):383-386	Original Article
49	塚本 祐也、神保幸太郎、松浦 充洋、他	整形外科	重症虚血肢(CLI)患者の下肢切断術に対し皮膚灌流圧(SPP)測定を用いた術前評価の検討	整形外科と災害外科. 2017;66(2):383-386	Original Article
50	Kiyokawa K	形成外科・顎顔面外科	頭頸部動静脈奇形(AVM)の治療における問題点	形成外科. 2017 Jun; 60: 602-603	Original Article
51	Omaru Y, Hashiguchi S, Yamauchi D, et al.	形成外科・顎顔面外科	当科における頭頸部動静脈奇形に対する治療戦略	形成外科. 2017 Jun; 60: 668-676	Original Article
52	Rikimaru H, Koga N, Kiyokawa K	形成外科・顎顔面外科	頭頸部再建における3つのタイプの大胸筋皮弁-三次元的血行形態に基づいた借頼における選択肢として	形成外科. 2017 Sep; 60: 1003-1006	Original Article
53	Hashiguchi S, Rikimaru H, Kiyokawa K	形成外科・顎顔面外科	仮骨延長法を応用した高度短鼻の治療法-保定期間における新たなデバイスの開発-	形成外科. 2017 Sep; 60: 1048-1049	Original Article
54	Oyama M, Rikimaru H, Kiyokawa K	形成外科・顎顔面外科	第3肋間型大胸筋皮弁による難治性頭部咽頭瘻の確実な閉鎖法	形成外科. 2017 Sep; 60: S160-S164	Original Article

55	Sakata K, Tanaka H, Omaru Y, et al.	形成外科・顎顔面外科	大腿筋膜や人工硬膜を用いない遊離皮弁のみによる硬膜・頭蓋底再建法	日本頭蓋顎顔面外科学会誌. 2017 Dec; 33: 127-131	Case report
56	Michinaga E, Han A, Omaru Y, et al.	形成外科・顎顔面外科	双極電気メスと色素レーザー治療を併用した複合療法を行った難治性尋常性疣贅の1例	形成外科. 2018 Mar; 61: 339-344	Case report
57	森岡 基浩	脳神経外科	もやもや病研究から学ぶ脳循環・脳血管の病態	山形県対脳卒中治療研究会誌 37:19-38, 2017	Original Article
58	廣畑 優	脳神経外科	脳動脈瘤に対する血管内治療	久留米医学会雑誌 80(6・7): 199-206, 2017	Original Article
59	森岡 基浩、廣畑 優、青木 孝親、他	脳神経外科	脳動脈瘤に対するhybrid治療 - Concept の hybrid化へ -	The M.Fuji Workshop on CVD. 35:108-111, 2017	Original Article
60	内門 久明、服部 剛典、森岡 基浩、他	脳神経外科	経椎間孔アプローチの際に必要な椎間孔周囲の微小解剖 - 文献レビュー -	脊髄外科 31(3):276-282, 2017	Original Article
61	Daisuke Masui, Suguru Fukahori, Kimio Asagiri, et al.	小児外科	Wandering spleen associated with omphalocele in a neonate: An unusual case with non-operative management	Journal of Pediatric Surgery Case Reports 2017 8-11	Original Article
62	Ohata C, Ishii N, Koga H, et al.	皮膚科	A clinical and serological study of linear IgA bullous dermatosis without linear immunoglobulin deposition other than IgA at the basement membrane zone using direct immunofluorescence.	Br J Dermatol. 2017; 177(1): 152-157	Original Article
63	Ohata C, Ohyama B, Nagata H, et al.	皮膚科	Direct Immunofluorescence Findings in Discoid Lupus Erythematosus and Bullous Pemphigoid.	Am J Dermatopathol. 2017; 39(4): 321-322	Original Article
64	Koga H, Ishii N, Hashimoto T, et al.	皮膚科	Case of shift from linear immunoglobulin A bullous dermatosis to pemphigus herpetiformis for a short period of time.	J Dermatol. 2017; 44(2): 189-193	Case report
65	Bieber K, Koga H, Nishie W	皮膚科	In vitro and in vivo models to investigate the pathomechanisms and novel treatments for pemphigoid diseases.	Exp Dermatol. 2017; 26(12): 1163-1170	Review
66	Ishii N, Nakama T.	皮膚科	類天疱瘡の診断と治療(前編)	西日本皮膚科, 2017; 79(2): 176-183	Review
67	Ishii N, Nakama T.	皮膚科	類天疱瘡の診断と治療(後編)	西日本皮膚科, 2017; 79(4): 386-390	Review
68	Tsuda N, Kawano K, Terada A, et al.	産婦人科	早期子宮頸癌に対する全腹腔鏡下広汎子宮全摘手術の安全性に関する検討	久留米医学会雑誌 2017 Jan;80(1):26-32	Original Article
69	Tsuda N, Yoshimitsu T, Nasu H, et al.	産婦人科	卵巣癌初回手術後の癒着性小腸閉塞に対し腹腔鏡補助下イレウス解除術を施行した1例	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 2017Apr;33(1):156-61	Case report
70	Fujita T, Kozuma Y, Yamazaki T, et al.	産婦人科	周産期良性型 Hypophosphatasia の1例	日本周産期・新生児医学会雑誌2017 May;53(1):233-8	Case report
71	Tasaki S, Kawano K, Nishio S, et al.	産婦人科	卵巣腫瘍茎捻転を生じた Mayer-Rokitansky-Kuster-Hauser 症候群の1例	福岡産科婦人科学会雑誌 2017 Jul;41(1):17-20	Case report
72	Yoshizato T	産婦人科	近年の超音波診断装置の進歩に伴う産科診療のパラダイムシフト	久留米医学会雑誌 2017 Jul;80(6・7):143-9	Original Article
73	Tsuda N, Nishigawa J, Yoshida A, et al.	産婦人科	日本産科婦人科学会大規模災害対策情報システム(EMIS周産期新生児版)の開発	日本産科婦人科学会雑誌 2017 Dec;69(12):2269-374	Original Article

74	Inoue S, Hori D, Kozuma Y, et al.	産婦人科	妊娠糖尿病妊婦における診断時と産褥早期の耐糖能変化についての検討	日本周産期・新生児医学会雑誌 2017 Dec;53(4):1012-8	Original Article
75	Haruta M, Kodama R, Yamakawa R	眼科	Optical coherence tomography detection of characteristic retinal nerve fiber layer thinning in nasal hypoplasia of the optic disc	Eye: 2017; 31(12): 1685-1688	Original Article
76	Haruta M, Taguchi C, Yamakawa R	眼科	Macular hole formation after pars plana vitrectomy for primary vitreoretinal lymphoma	Retin Cases Brief Rep: 2017 Nov 22	Case report
77	Haruta M, Yamakawa R	眼科	Vitrectomy for macular retinoschisis without a detectable optic disk pit. Retina 37(5): 915-920, 2017	Retina: 2017; 37(5): 915-920	Original Article
78	Haruta M, Arai M, Sueda J, et al.	眼科	Patching retinal breaks with Seprafilm for treating retinal detachments in humans: 9 years of follow-up.	Eye: 2017; 31(5): 776-780	Original Article
79	春田 雅俊、竹下 弘伸、山川 良治	眼科	スタージ・ウェーバー症候群に伴う緑内障に対する線維柱帯切開術の成績	臨床眼科: 2018; 72(1): 109-114	Original Article
80	春田 雅俊、半田 壮、山川 良治	眼科	常位胎盤早期剥離に合併した両眼の漿液性網膜剥離の1例.	眼科臨床紀要: 2017; 10(12): 996-999	Case report
81	嵩翔 太郎、門田 遊、田口 千香子、他	眼科	両眼性サイトメガロウイルス角膜炎に併発した水疱性角膜症に対してDSAEKを施行した1例	あたらしい眼科: 2017; 34(11): 1601-1605	Case report
82	梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	頭頸部癌学 -診断と治療の最新研究動向-	日本臨床, 2017	Original Article
83	千年 俊一、末吉 慎太郎、堀光 緒子、他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	高齢者の反回神経麻痺の病態特性と治療効果	日気食会報, 2017	Original Article
84	小野 剛治、梅野 博仁、千年 俊一、他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	頭頸部扁平上皮癌pN2c症例の臨床的検討 -局所再発、予後因子について-	頭頸部癌, 2017	Original Article
85	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	内視鏡下輪状咽頭筋切断術の適応	日耳鼻専門医通信, 2017	Original Article
86	Takeharu Ono, Norimitsu Tanabe, Hirohito Umeno, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Treatment outcomes of locally advanced squamous cell carcinoma of the ethmoid sinus treated with anterior craniofacial resection or chemoradiotherapy	Case Rep Oncol, 2017	Case report
87	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	喉頭腫瘍に対するレーザー治療	耳喉頭頸, 2017	Original Article
88	佐藤 公則、栗田 卓、千年 俊一、他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	ヒト声帯黄斑の機能 -ヒトはなぜ一発発声できるのか-	音声言語医学, 2017	Original Article
89	三橋 亮太、三橋 拓之、梅野 博仁、他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Endoscopic Modified Medical Maxillectomy (EMMM)アプローチでの嚢胞の摘出が有用であった鼻涙管外側に位置する術後性上顎嚢胞症例	日鼻誌, 2017	Case report
90	梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	喉頭微細手術の準備と手技	日耳鼻, 2017	Original Article
91	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	下咽頭～食道入口部: 粘膜 Zenker憩室	JHONS, 2017	Original Article
92	Miyata Y, Suzuki G, Eto H, et al.	放射線科	食道癌化学放射線療法後に転移性骨腫瘍との鑑別を要した化膿性脊椎炎・脊椎硬膜外腫瘍の1例	臨床放射線, 62(4): 567-570, 2017	Case report

93	Chikasue T, Muraki K, Ogo E, et al.	放射線科	放射線単独療法が著効した化学療法抵抗性高齢者メルケル細胞癌の1例	臨床放射線, 62(7):1001-1004, 2017	Case report
94	Sumi A, Nagata S, Zaizen M, et al.	放射線科	Mature Cystic Teratoma With an Element of Hepatocellular Carcinoma in Anterior Mediastinum Magnetic Resonance-Pathologic Correlation.	J Thorac Imaging, 32(6):84-86, 2017	Case report
95	Kuhara A, Tanaka N, Kugiyama T, et al.	放射線科	Treatment of a Large Pharyngeal Venous Malformation using Transoral Sclerotherapy.	Kurume Med J, 64(1.2):35-38, PMID:29176297, DOI:10.2739/kurumemedj.MS640014, 2017	Case report
96	武富孝治、轟圭太、中村守敏、他	歯科口腔医療センター	軟口蓋に発生した基底細胞腺癌の1例	日本口腔腫瘍学会雑誌 29(2)P.53-58,2017	Case report
97	中村守敏、武井雄介、高野雅代、他	歯科口腔医療センター	軟口蓋部に発生したsialolipomaの1例	日本口腔外科学会雑誌 63(3)P.148-152,2017	Case report
98	Shogo Kikuta, Yoshinaka Murai, Eiichiro Tanaka	歯科口腔医療センター	Activation of cathepsin L contributes to the irreversible depolarization induced by oxygen and glucose deprivation in rat hippocampal CA1 neurons.	Neuroscience Letters 636 P.120-126,2017	Original Article
99	木村 寛子、山田信一、津田 勝哉、他	麻酔科	複合性局所疼痛症候群に伴う指関節拘縮に対して超音波ガイド下尺骨神経ブロック下に関節授動術を施行した1例	臨床麻酔 2017 Aug; 41:1105-8	Case report
100	Nishio Y, Hiraki T, Taniguchi H, et al.	麻酔科	Anesthetic management during a cesarean section in a patient with cleidocranial dysplasia: a case report	JA Clinical Reports 2018 Mar; 4:2 DOI 10.1186/s40981-017-0141-2	Case report
101	金苗 幹典、萬木真理子、田代 恵太	高度救命救急センター	非外傷性腹腔内出血に対しIntra-aortic balloon occlusion(IABO)カテーテルを用いて救命した1例	日本救命医療学会雑誌 2017;31:41-44.	Case report
102	八板 謙一郎	感染制御科	特集:不明熱と感染症、トピックスⅢ. 院内・術後に見られる不明熱	日本内科学会雑誌. 2017 Nov; 106: 2326-2332	Case report
103	後藤 憲志、島さほ、多々良 一彰、他	感染制御科	市中感染型MRSAIによる骨髄炎の1小児例	久留米医学会雑誌. 2017 Dec; 80: 328-333	Case report
104	後藤 憲志、岩橋潤、渡邊 浩	感染制御科	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症にはバイオフィームが関与している	Bacterial Adherence & Biofilm. 2017; 31: 25-26 (2018年5月)	Original Article
105	Kakino S, Ohki T, Nakayama H, et al.	内分泌代謝内科	Pivotal Role of TNF- α in the Development and Progression of Nonalcoholic Fatty Liver Disease in a Murine Model	Hormone and Metabolic Research 50(1) : 50(1):80-87, 2018	Original Article
106	Otabe S, Nakayama H, Ohki T, et al.	内分泌代謝内科	Haemoglobin variants may cause significant differences in haemoglobin A1c as measured by high-performance liquid chromatography and enzymatic methods in diabetic patients: a cross-sectional study	Annals of Clinical Biochemistry 54(4):432-7, 2017	Original Article

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

計106件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 任務、組織、運営等、審議に関するもの	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 委員会の構成、運営、審議事項等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 臨床研究、治験に関する臨床試験セミナーを実施している	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・ 研修の主な内容 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 ・ 研修の期間・実施回数 11月25日（土） ～ 11月26日（日） ・ 1回 ・ 研修の参加人数 31名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

	診療科	研修内容	統括者氏名	
1	内科	上部内視鏡検査	消化器内科	鳥村 拓司
		腹部エコー検査		
		心臓カテーテル検査、冠動脈形成術、末梢動脈形成術	心臓・血管内科	福本 義弘
		心エコー・経食道エコー検査		
		ペースメーカー・除細動器植え込み術、心臓再同期療法術		
		血液疾患の診断と治療	血液・腫瘍内科	長藤 宏司
		血液透析を含む血液浄化に関する研修	腎臓内科	深水 圭
		ソマトスタチンアナログと人工膵臓によるインスリン抵抗性と降β細胞機能の評価	内分泌代謝内科	野村 政壽
		エコーガイド下における甲状腺腫瘍に対する穿刺吸引細胞診		
2	小児科	小児不整脈に対するカテーテルアブレーション治療	小児科	山下 裕史朗
		重症新生児仮死に対する脳低温療法		
		心房中隔欠損症に対するカテーテルアンブラツター治療		
		Rett症候群に対するグレリン治療		
		ミトコンドリア脳筋症に合併する高乳酸血症に対するビルビン酸ナトリウム治療法		
3	整形外科	整形外科疾患に対する診察診断技術と術式の研修、周術期の管理	整形外科	志波 直人
4	形成外科・顎顔面外科	形成外科基本的理論研修(創傷治療、皮膚切開、皮膚縫合、真皮縫合、深皮、植皮)	形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔
		形成外科基本的手術手技の研修(局所麻酔手術の執刀)		
5	脳神経外科	脳血管撮影	脳神経外科	森岡 基浩
		神経内視鏡手術		
		穿頭手術		
6	外科	一般外科・小児外科研修	小児外科	八木 実
		上部消化管(造影)検査		
		上部消化管(内視鏡)検査	外科	赤木 由人
		下部消化管(造影)検査		
		下部消化管(内視鏡)検査		
		マンモグラフィ読影		
		乳腺エコー検査		
		肝胆脾外科手術における3次元術前シミュレーション		
7	皮膚科	皮膚科学の各論および基本的手技に関する研修	皮膚科	名嘉真 武園
8	泌尿器科	腹部エコー検査	泌尿器科	井川 肇
9	産婦人科	ハイリスク妊婦に対する高度周産期医療	産婦人科	牛嶋 公生
10	耳鼻咽喉科・顎顔面外科	耳鼻咽喉科疾患に対する診察診断技術と手術の研修、周術期の管理	耳鼻咽喉科	梅野 博仁
11	精神神経科	精神神経科専門研修	精神神経科	内村 直尚
12	歯科口腔医療センター	顎変形症手術手技勉強会	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
13	麻酔科	手術麻酔(手術管理)	麻酔科	平木 照之
14	高度救命救急センター	重症外傷に対する初期診療(特にMT療法およびIABO/REBOAによる救急蘇生)研修	高度救命救急センター	高須 修
		心肺停止後蘇生患者および重症頭部外傷患者に対する体温管理法に関する研修		
		体外循環式心肺蘇生法(ECPR)に関する研修		
		重症熱中症患者に対する体外循環を用いた急速冷却療法に関する研修		
		ドクターカー・ドクターヘリを用いた病院前救急診療に関する研修		

研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職	臨床経験年数	特記事項
星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	診療部長	29	
谷脇 考恭		診療部長	33	
井田 弘明		診療部長	30	
鳥村 拓司	消化器内科	診療部長	35	
福本 義弘	心臓・血管内科	診療部長	27	
深水 圭	腎臓内科	診療部長	25	
野村 政壽	内分泌代謝内科	診療部長	31	
長藤 宏司	血液・腫瘍内科	診療部長	29	
内村 直尚	精神神経科	診療部長	35	
山下 裕史朗	小児科	診療部長	35	
赤木 由人	外科	診療部長	31	
田中 啓之		診療部長	36	
奥田 康司		診療部長	39	
志波 直人	整形外科	診療部長	35	
清川 兼輔	形成外科・顎顔面外科	診療部長	34	
森岡 基浩	脳神経外科	診療部長	32	
八木 実	小児外科	診療部長	35	
名嘉真 武國	皮膚科	診療部長	30	
井川 掌	泌尿器科	診療部長	29	
牛嶋 公生	産婦人科	診療部長	34	
吉田 茂生	眼科	診療部長	23	
梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療部長	29	
安陪 等思	放射線科	診療部長	33	
楠川 仁悟	歯科口腔医療センター	診療部長	30	
平木 照之	麻酔科	診療部長	21	
高須 修	高度救命救急センター	センター長	28	

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 八木 実
管理担当者氏名	診療関係：各診療科部長（別紙1） 管理関係：事務部長 坂田 哲

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	病院日誌	<p>① 紙媒体</p> <p>【入院】</p> <p>番号法：一元番号法 保管法：ターミナルプリント 保管対象：平成15年4月1日～平成25年9月30日 保管場所：診療録・診療所記録（外部倉庫） エックス線写真（外部倉庫、各外来受付、医局、資料室） 平成21年4月1日より情報システム室（病院）のPACSにて電子保存。</p> <p>※平成15年3月31日以前の診療録等に関しては、各診療科の医局管理のもと医局室・資料室・外部倉庫に保管されている。</p> <p>【外来】</p> <p>番号法：一元番号法 保管法：ターミナルプリント 保管対象：原則、最終来院日が10年以内のもの 保管場所：A区分－最終来院日1年以内（各診療科受付） B区分－最終来院日1年～10年以内（外部倉庫） C区分－最終来院日10年以上経過（外部倉庫）</p> <p>② 電子媒体</p> <p>【入院・外来】</p> <p>平成25年10月1日以降の診療記録については、紙媒体で発生するものもスキャンし、全て電子媒体で保管。</p>
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
		外部倉庫	
病院資料室			
各診療科の医局及び資料室			
各診療科受付			

病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	部門ごとに、電子媒体や紙ファイルにて保管・管理している。 以下同じ
		高度の医療の提供の実績	管理課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課	
		高度の医療の研修の実績	管理課	
		閲覧実績	管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	管理課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院経営室 薬剤部	医療安全管理部 医療安全管理事務室 医療安全管理部 医療安全管理事務室 医療安全管理部 医療安全管理事務室 医療安全管理部 医療安全管理事務室
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	感染関連マニュアル(紙媒体)
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理事務室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理事務室	感染対策委員会会議資料、ICT会議資料(紙媒体)
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	高難度新規医療技術管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	未承認新規医薬品・医療機器管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		管理者が有する権限に関する状況	管理課 総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	なし		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

管理担当者一覧

診療科	管理担当者氏名	診療科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	井川 掌
消化器内科	鳥村 拓司	産婦人科	牛嶋 公生
心臓・血管内科	福本 義弘	眼科	吉田 茂生
腎臓内科	深水 圭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	野村 政壽	放射線科	安陪 等思
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	内村 直尚	麻酔科	平木 照之
小児科	山下 裕史朗	高度救命救急センター	高須 修
外科	赤木 由人	呼吸器病センター	星野 友昭
	田中 啓之	消化器病センター	鶴田 修
整形外科	志波 直人	循環器病センター	田中 啓之
形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔	内科総合外来	深水 圭
脳神経外科	森岡 基浩	乳腺外科・一般外科総合外来	赤木 由人
小児外科	八木 実	薬剤部	福本 義弘
皮膚科	名嘉真 武國		

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 八木 実	
閲覧担当者氏名	診療関係：各診療科部長（別紙 1）管理関係：事務部長 坂田哲	
閲覧の求めに応じる場所	第 3 会議室	
閲覧の手続の概要 ・「病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧請求書」を提出し、病院長決裁後、第 3 会議室にて閲覧。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延 0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有 無）</p> <p>・ 開催状況：年 1 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重大な問題その他委員会において取り扱う問題が発生した場合における速やかな原因究明のための調査及び分析、その結果を活用した医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策の立案、実施及び職員への周知 2. 改善のための方策の実施状況調査、必要に応じた当該対策の見直し 3. 医療の安全管理の啓発、及びその評価を図るために必要な事項 4. 医療安全管理マニュアルの改訂及び各部署の安全対策に関する手順の作成指導 5. リスクマネジャー会議招集 6. 医療安全に係る患者からの相談に関する対応 7. 医療事故調査制度に基づく死亡症例に関する事項 8. その他委員長が必要と認める事項 <p>主な内容： 事故事例報告、各下部小委員会からの報告、警鐘事例報告、死亡症例報告、医薬品管理状況報告、監査委員会報告、福岡県四大学病院安全会議報告、日本医療機能評価機構からの事故情報報告、PMDAからの情報報告、医療安全関連規則 制定、開廃審議、その他</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 5 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の安全使用 ・ 医療機器（人工呼吸器、保育器、AED、透析機器、人工心肺）、医療ガスの安全使用 ・ 改正医療法 医療法施行規則に基づく当院の医療安全管理体制 ・ インシデント報告と医療事故報告制度 ・ クリニカルパス ・ 久留米大学病院監査委員会結果報告 ・ 輸液セット導入に係る研修 ・ IVインストラクターコース発表会 ・ 緩和医療 疼痛除去 麻薬の安全な使用 ・ 栄養アセスメント ・ 認知症ケア 	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
- ・ 医療安全推進委員会（多職種）での各部署の問題点抽出、計画、実施、評価改善活動を実施、中間及びまとめを委員会報告
- ・ インシデント小委員会での内容の審議、対策立案、周知
- ・ セイフティコントロール
- ・ 医療安全管理対策委員会にて報告し各部署にて共有

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>1. 医療関連感染対策に関する基本的な考え方 2. 委員会等の組織に関する基本的事項 3. 職員研修に関する基本方針 4. 感染発生状況の報告に関する基本方針 5. 感染発生時対応に関する基本指針 6. 指針の閲覧に関する基本方針 7. その他医療関連感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>・ VRE 積極的監視培養の結果報告、ICT からの活動報告（抗生剤適正使用状況監視、耐性菌サーベイランス結果報告、針刺し・切創報告、ICT 活動（週 1 回程度の病棟ラウンド）状況、LN 会活動状況報告等）</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 8 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>・ 標準予防策、経路別感染予防対策、手指衛生、抗生剤適正使用、針刺し・切創対策、感染症トピックス等</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>・ 血培陽性者および感染症法に定められた感染症に関する菌（耐性菌）・ウイルスに関しては平日、感染制御部スタッフが電子カルテ上で確認、その都度アウトブレイク対応表に順じてICD/ICNが介入している。検査部門・全入院患者部門・NICU部門においてJANISに参加している。耐性菌発生時は状況に応じて、管轄保健所や九州厚生局等への報告を行っている。院内感染対策推進としては、院内でICT/LN活動を積極的に行い、病棟出張勉強会に力を注いでいる。院外では地域病院と連携し研修・講習会等を実施している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年8回
<p>・ 研修の主な内容：</p>	
<p>1. 平成29年4月3日 平成29年度新採用者オリエンテーション（臨床研修医） 「処方せんと医薬品の取扱い」</p> <p>2. 平成29年4月25日 第139回久留米大学TQM講習会「医薬品の安全使用について」</p> <p>3. 平成29年6月4日 平成29年度久留米大学病院看護師静脈注射研修 「IVナースインストラクターコース」</p> <p>4. 平成29年6月16日 平成29年度新規採用看護師 「薬物の取扱い」</p> <p>5. 平成29年7月12日 「皮下注手技について」 「造影剤について」</p> <p>6. 平成29年12月18日 「抗がん薬投与時の注射伝票を正しく読み解きましょう」</p> <p>7. 平成29年12月19日 第147回久留米大学TQM講習会 「がん疼痛治療指針 Up date (第6版) オピオイド治療を安全に行うために」</p> <p>8. 平成29年12月20日 東7病棟勉強会 「頓服薬について学ぶ」</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>・ 病棟・外来での医薬品（定数配置薬、麻薬、向精神薬、毒薬、消毒薬、医薬用外毒物劇物含む）管理状況の定期的チェック（定数見直し、数、有効期限も含む）</p> <p>・ 病棟・外来での医薬品情報の整理・周知状況の定期的チェック</p> <p>・ 手順書遵守状況の確認（医薬品の受領、ダブルチェック等）</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 未承認新規医薬品の使用はありません。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>・ 未承認薬については未承認新規医薬品・医療機器管理部を担当部門として、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。</p> <p>・ 未承認薬等医薬品の使用情報は、平成28年12月に各診療科あてに調査を行い、収集した。その後の適応外使用等については、薬剤部より疑義照会し、医薬品安全管理責任者より病院倫理委員会委員長へ報告をし、病院倫理委員会への申請を促している。</p> <p>・ 最新の医薬品情報を収集し、適切に管理し、各職種に迅速に提供できる体制を整備し、緊急安全性情報・安全性速報、PMDAおよび日本医療機能評価機構の医薬品に関する安全性情報等については、電子カルテシステムのメッセージ機能により情報提供を行い、掲示板の「お知らせ」及びメニューの「薬剤部医薬品情報室」に掲載し、文書でも関連部署に配布している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 15 回
・ 研修の主な内容： ① 人工呼吸器：患者さんに安全な人工呼吸器療法及び構造、アラームおよび対処法 ② 閉鎖式保育器：保育器管理におさえておきたい基本 ③ 血液浄化装置：血液浄化の安全管理、緊急時及びアラーム時の対処について ④ 人工心肺装置及び補助循環装置：安全な取扱い、緊急時の対処法、日常の管理について ⑤ 除細動装置：基本的な構造及び使用方法、日常点検、注意事項について	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有 無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ・ 人工呼吸器、閉鎖式保育器、血液浄化装置、人工心肺装置及び補助循環装置、除細動装置については年に 1 回の定期点検及び必要な部品の交換、日常の保守管理を行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 医療機器安全情報については多方面より情報の収集を行い、より重要な情報については 医療機器管理小委員会、医療安全管理対策委員会に報告、また、各病棟・外来、関係講座に「安全情報」として電子カルテ上に掲載することにより院内への周知をおこなっている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 責任者の資格 (医師・歯科医師)・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況・ 医療安全管理部長を医療安全管理責任者として配置し、医療安全担当副院長である。・ 医療安全、医薬品安全及び医療機器安全について必要な知識を有している。・ 医療安全に関わる研修を定期的に受講している。 <p>(業務)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 病院長と連携し、医療安全に資する診療内容のモニタリング、医療安全の認識の浸透度の確認を行い、各部門の安全管理業務を把握する。・ 専門分野責任者と連携し、各部門の安全管理を推進・指導する。・ 医療事故、警鐘事例について周知、指導する。・ 医療安全管理上の問題、対策について周知、指導する。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2名) ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況・ 最新の医薬品情報を収集し、適切に管理し、各職種に迅速に提供できる体制を整備し、緊急安全性情報・安全性速報、PMDAおよび日本医療機能評価機構の医薬品に関する安全性情報等については、電子カルテシステムのメッセージ機能により情報提供を行い、掲示板の「お知らせ」及びメニューの「薬剤部医薬品情報室」に掲載し、文書でも関連部署に配布している。・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況・ 未承認薬については未承認新規医薬品・医療機器管理部を担当部門として、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。・ 未承認薬等医薬品の使用情報は、平成28年12月に各診療科あてに調査を行い、収集した。その後の適応外使用等については、薬剤部より疑義照会し、医薬品安全管理責任者より病院倫理委員会委員長へ報告をし、病院倫理委員会への申請を促している。・ 担当者の指名の有無 (有・無)・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)	

<ul style="list-style-type: none">・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・責任者をリスクマネージャー（診療部長）とする。・診療録のインフォームド・コンセントに関する監査をサブリスクマネージャー（病棟医長）により実施、遵守状況はセーフティコントロールチーム委員会巡回にて確認、指導している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・医療情報センター長を管理責任者として配置している。・診療情報監査委員会において、定期的に相互監査（病棟医長・看護師長が相互に他診療科の診療録監査を行う）を実施している。相互監査ではチェックリストに基づいて診療記録の内容を確認し、必要に応じて記載方法等について指導を行っている。・診療科内で計画し、実施する科内監査を平成29年度より導入した。診療科等の長及び外来医長、病棟医長等で自らの診療科の診療記録等を監査し、必要に応じて作成者へ指導を行っている。その結果は、診療情報監査委員会へ報告し、必要に応じて啓蒙、是正勧告を行っている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・所属職員：専従（7）名、専任（ ）名、兼任（3）名<ul style="list-style-type: none">うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること・活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく各部門における医療安全対策実施状況を把握、分析し、医療安全に必要な業務改善等の具体低な対策を策定する。・事故その他の医療安全管理部門において取り扱うことが必要なものとして、病院長が認める事象が発生した場合における診療録及びその他の診療諸記録、患者及び家族への説明、その他の対応状況を把握し、当該事象の発生の原因の究明及び当該結果にもとづく対策の実施等について職員へ指導する。	

- ・医療安全に資する診療内容のモニタリング及び医療安全の認識の浸透度の確認等を行なう。
- ・医療安全管理対策に係る体制を確保するための職員研修の企画、実施し、実績を記録する。
- ・医療安全管理対策に係る取り組みの評価等を行なうカンファレンスを週1回開催する。
- ・医療安全管理対策委員会との連携状況および事務取り扱いに関すること。
- ・患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取り扱いに関すること。
- ・医療安全管理者の活動実績の記録に関すること。
- ・医療事故、インシデントの収集と集計、分析、対策の実施に関すること。
- ・医療機関等の医療安全に係る情報収集及び医療安全情報の発行、職員への周知及び指導に関すること。
- ・医療安全に係る連絡調整に関すること。
- ・医療安全管理マニュアル等の作成、整備に関すること。
- ・その他医療安全に関すること。

※ 診療モニタリング

- ・全身麻酔手術件数に対する深部静脈血栓塞栓症予防対策実施率
- ・看護師必須同席と定めたIC同席率
- ・転倒・転落発生率
- ・IC実施に関する監査
- ・検査結果報告書見落とし防止策の実施状況

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 無）
- ・活動の主な内容：
高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等に関する委員会の意見を踏まえて、当該高難度新規医療技術の提供、実施を認める条件等について決定した上で、診療科の長に対しその結果を通知する。
手術記録、診療録等の記載内容を確認し、当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたか否かを確認する。
決定事項、確認事項等について病院長に報告する。

<ul style="list-style-type: none">・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)
<p>⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況</p> <ul style="list-style-type: none">・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (0 件)、及び許可件数 (0 件)・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 活動の主な内容： 未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等に関する委員会の意見を踏まえて、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定した上で、診療科の長に対しその結果を通知する。 定期的に診療録等の記載内容を確認し、当該未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたか否か確認する。 決定事項、確認事項等について病院長に報告する。・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none">・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：平成 29 年度 440 件・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 42 件・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容・ 死亡症例報告件数、報告状況、医療事故調査支援センターへの報告状況の共有・ 報告すべき有害事象に関する報告の内容検討
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none">・ 他の特定機能病院等への立入り (<input checked="" type="radio"/> 有 (病院名：藤田保健衛生大学病院) ・ 無)・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (<input checked="" type="radio"/> 有 (病院名：藤田保健衛生大学病院) ・ 無)

- ・ 技術的助言の実施状況
- ・ 全死亡事例が医療安全管理部へ報告されるが、安全確認が診療科判断のため、タイムリーに医療安全管理部が把握する必要がある。
- ・ SNS使用に関するガイドラインの整備
- ・ 重大事故事例の分析は、事故発生部署が実施しているが、医療安全管理者も事故分析に介入することで専門性が高くなる。
- ・ 生体情報モニターの責任者を決めること。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況
- ・ 患者相談窓口に関する規約に沿って実施
- ・ 医療安全管理部は、相談窓口担当者と連携を図り、医療安全対策に係る患者・家族の相談に適切に応じる体制を支援
- ・ 医療安全に関する相談について、医療安全管理部医療安全管理者が対応する。
- ・ 医療安全管理対策委員会で報告
- ・ 相談窓口は、医療連携センターにおき、患者から受けた相談について、担当部署で審議・対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況
- ・ 別紙 1、別紙 2 のとおり

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況
- ・ 国公立大学附属病院医療安全セミナー

(様式 6-2)

- ・ 久留米保健所主催医療安全対策研修会
- ・ 九州厚生局医療安全ワークショップ
- ・ 日本病院薬剤師会医薬品安全管理者責任者講習会
- ・ 特定機能病院管理者養成研修（日本医療機能評価機構）

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

日	時	開催時間	内容	講師	医師	看護業務者	コメディカル	事務	計	その他	備考	開催場所
1	4月23日(日)	9時00分~12時00分	平成29年度久留米大学病院救急科生講習会	久留米広域消防本部救急救命士	0	6	10	0	16	0		病院本館2階・第4会議室
2	4月25日(火)	17時30分~18時00分	第139回TQM講習会 医薬品の安全管理について	執行業務 先生	49	299	73	7	428	0		筑水会館イベントホール・中会議室
3	5月16日(火)	17時30分~18時00分	第140回TQM講習会 栄養アセスメント	医学部医学部外科科学講座 小児外科部門 石井 信二 先生	66	273	50	15	404	1	外部業者 (株) ルフト メディカルケ ア(1名)	筑水会館イベントホール・中会議室
4	5月30日(火) 6月1日(木)	17時00分~17時45分	人工呼吸器ハンギングビデオ取り扱い	日本光電	6	11	12	0	29			東6棟棟・臨床工学センター
5	6月5日(水)	17時00分~18時30分	人工呼吸器ベネット980取り扱い	メトロニック	0	0	14	0	14			臨床工学センター
6	6月13日(木) 12日(月) 15日(水) 22日(水) 9日(木)	17時30分~18時30分	医療に係る安全管理及び院内感染対策のDVD研修会 ・インシデント・医療事故と対策、医療訴訟 ・久留米大学病院における職業感染予防対策	医療安全管理部 部長 新山 修平 先生 感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	144	507	234	118	1,003	1	外部業者 (株) ルフト メディカルケ ア(1名)	筑水会館イベントホール
7	6月27日(木)	17時30分~18時00分	第141回TQM講習会 ・クリニカルパス作成の実践について	医療情報センター/医療情報センター 副センター長 七尾 博行 先生	49	188	13	7	257	0		筑水会館イベントホール
8	7月7日(金)	17時00分~18時00分	第3回認知症ケア研修会 これだけは知っておきたい！認知症	AGENCE AGC 先生	22	0	0	0	22	0		筑水会館イベントホール
9	7月12日(水)	17時00分~17時45分	保育器について	アトム	0	21	2	0	23			臨床工学センター
10	7月20日(水) 26日(水) 29日(土) 31日(月)、8月 1日(火)、7 10日(月)、9月 6日(水)、8日 (金)、13 (水)19日(火) 21日(木)	17時00分~18時00分	第142回TQM講習会 ・Chemical coping ~あなたも依存形成に加 担しているかも?~ 透析通達システム NICU設備見学報告 人工透析 操作方法と取り扱い	緩和ケアチーム 佐野 智美 先生 日機装 臨床工学センター 臨床工学センター	56	223	43	15	337	0		筑水会館イベントホール
11	7月21日(金)	17時00分~18時00分	第143回TQM講習会 ・臨床工学センターについて	臨床工学センター 臨床工学技士 大熊 仁 恵 先生	24	172	45	11	253	0		筑水会館イベントホール
12	7月25日(火)	17時00分~18時00分	人工透析 操作方法と取り扱い	日機装	0	0	8	0	8			
13	8月9日(水)	17時15分~18時15分	NICU設備見学報告	臨床工学センター	0	0	9	0	9			
14	8月9日(水)	17時00分~18時00分	人工透析 操作方法と取り扱い	臨床工学センター	0	0	5	0	5			
15	8月18日(金)	17時30分~18時00分	第143回TQM講習会 ・臨床工学センターについて	臨床工学センター 臨床工学技士 大熊 仁 恵 先生	24	172	45	11	253	0		筑水会館イベントホール
16	9月5日(火)	17時00分~18時00分	人工透析 操作方法と取り扱い	日機装	0	0	8	0	8			
17	9月12日(火)	17時30分~18時30分	第144回TQM講習会 ・久留米大学病院医療安全監査委員会結果報告について ・当院高度救命救急センターでのカルパルパネム耐性菌内臓菌科 細菌(CRE)アウトブレイクの概況	医療安全管理部 医療安全管理者 北野 登美子 先生 感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	109	362	121	65	657	2	学生(2名)	筑水会館イベントホール
18	9月13日(水)	17時00分~18時00分	高低温装置 操作方法と取り扱い	旭化成	0	0	14	0	14			
19	9月15日(金) 29日(金)	18時30分~17時00分	除細動機 操作方法と取り扱い	臨床工学センター	0	62	0	0	62			
20	9月15日(金)、20 (水)、25日(月)、26 (火)、29日(金)		医療に係る安全管理のための職員研修会 ・輸液セット導入に係る研修	医療安全管理部	114	446	36	8	604			病院本館2階・第1~3会議室
21	9月27日(水)	17時00分~18時00分	透析患者の栄養 透析液水質基準	臨床工学センター	0	0	7	0	7			
22	9月28日(木)	17時00分~18時00分	IVナースインストラクターコース課題実践計画発表会		0	16	0	0	16			病院本館2階第3会議室

平成29年度安全管理研修会受講者数(対象者)(DVD受講者含む。)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師	看護業務者	コメディカル	事 務	計	その他	備 考	開 催 場 所
23 10月6日(金)	17時00分~18時00分	人工透析 操作方法と取り扱い	臨床工学センター	0	0	13	0	13			
24 10月17日(火)	17時30分~18時00分	第145回TQM講習会 ・医療法施行規則に基づく当院の医療安全管理体制	医療安全管理部 部長 田中芳明先生	30	132	20	8	190			筑水会館イベントホール
25 11月15日(水)	17時00分~18時00分	閉鎖式保育器の安全管理	臨床工学センター	0	12	14	0	26			病院本館2階第1会議室
26 11月19日(日)	8時30分~13時00分	平成29年度病院災害訓練	病院防災対策委員会 委員長 八木実	53	91	34	35	213			病院本館2階第1会議室
27 11月21日(火)	17時30分~18時30分	第146回TQM講習会 ・体験型教室について ・新薬治療と看護について	医学部医学部外科科学講座 小児外科部門 吉田 崇先生 医学部医学部形成外科・顎顔面外科講座 樋口晋一郎先生	97	249	63	36	445			筑水会館イベントホール
28 12月13日(水)	17時00分~18時00分	補助循環の安全管理	臨床工学センター	0	16	9	0	25	1	久留米市医師会	筑水会館イベントホール
29 12月19日(火)	17時30分~18時30分	第147回TQM講習会 インフルエンザの感染対策にどこまで根拠があるのか? -がん検診補助費削減計画 Update -オビヤン治療を安全に行うために-	感染制御部 副部長 八坂 謙一郎先生 薬剤部 小宮 孝敬先生	61	134	61	29	285			筑水会館イベントホール
30 12月20日(水)	17時00分~18時00分	人工呼吸器の安全管理	臨床工学センター	0	18	10	0	28			病院本館2階第1会議室
31 1月18日(木)	17時00分~18時00分	血液浄化の安全管理	臨床工学センター	0	15	11	0	26			病院本館2階第1会議室
32 1月26日(金)	17時30分~18時30分	第148回TQM講習会 ・インシデント報告と医療事故報告制度について ・日本皮膚科学会における医療従事者に対する回答 ～医療従事者の疑問に対する回答～	医療安全管理部 副部長 横山 晋二先生 皮膚科学講座 名富真 龍太先生	42	135	29	14	220			筑水会館イベントホール
33 2月1日(木)	17時00分~18時00分	除細動器の安全管理	臨床工学センター	3	11	7	0	21			病院本館2階第1会議室
34 2月20日(火)	17時30分~18時30分	第149回TQM講習会 ・医療ガスを使用する安全性 ・事故を起ささないために ・今年度のインフルエンザ発生状況について	臨床工学センター 技師長 杉原 学先生 薬剤部 主任薬剤師 酒井 義朗先生	26	91	20	8	145			筑水会館イベントホール
35 3月23日(金)	17時30分~18時30分	第150回TQM講習会<TQM大会> ・救命センターでの精進対策～頭槌カラ一線着時の精進予防への取り組み～ ・歯科口腔医療センターでのNSIの取り組み ・あなたへのインシデント報告が業務を委えた! ・ケアをつなぐ～緩和ケア地域連携パスを導入して～ ・パス作り隊から選抜をめぐせ!～2017年度 活動報告～ ・手指衛生を厳格にせよう!～手洗いキャンペーンの裏面～	救命センター 看護師 井崎 有貴先生 栄養治療部 池田 真由美先生 医療安全管理部 川野 庄由里先生 緩和ケアチーム 専任看護師 村上 美樹先生 看護部管理室 高野 正代先生 感染制御部 梅田 文代先生	15	69	16	9	109			筑水会館イベントホール
計				975	3,921	1,059	385	6,341	5		
				619	120	23	10	772			

※ 下段はDVD受講者数

平成29年度感染管理研修会受講者数 (DVD受講者含む。)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師	専 門 業 務 者	計	その他	備考	開 催 場 所
4月 3日 (月)	11時00分~11時30分	耐性菌の対応について	渡 邊 浩 先生	22 0	6 0	48 0	0		東海総合医療センターカンファレンス室
4月 3日 (月)	15時00分~16時00分	病院における感染対策	三浦 美穂・稗 田 文 代 先生	190 0	619 0	941 0	54	外部委託業者 (愛寛会)	病院本館2階・第1会議室
5月 8日 (月) ~	-	手洗い演習	三浦 美穂・稗 田 文 代 先生	2 0	0 0	30 0	3	学生 (2名) 外部業者 (1名)	-
5月10日 (水)	17時00分~17時30分	リハビリ部門における感染対策	稗 田 文 代 先生	276 0	76 0	352 0	0		リハビリテーション室
5月 5日 (水) ~	-	中央手術部における針刺し・切開事故DVD視聴	-	2 0	15 0	20 0	0		-
5月25日 (木)	16時00分~16時30分	腎センターにおける感染対策について	三浦 美穂 先生	2 0	0 0	20 0	0		腎センター室
6月1日 (水)・12 (水)・15 (水)・22 (水)・29日 (水)	17時30分~18時30分	医療に係る安全管理及び院内感染対策のDVD研修会 ・インシデント・医療事故と対策、医療防犯 ・久留米大学病院における職業災害予防対策	新 山 裕 平 先生 副部長 渡 邊 浩 先生 部長	144 0	507 0	1,003 0	1	外部業者 (株) ルフト メディアカルケア: 1名	第3水産イノベーションホール
6月8日 (水)・12日 (月)	14時10分~15時00分	看護助手が行う感染対策	三浦 美穂 先生	0 0	89 0	89 0	4	外部業者 (4名)	病院本館2階・第1会議室
6月21日 (水)	11時00分~11時30分	標準予防策と個人防護具の解説 (演習)	三浦 美穂 先生	10 0	71 0	81 0	27	外部委託業者 (九州エアウォーター)	中央薬材材料部
6月14日 (水)・21日 (水)・28日 (水)	-	標準予防策 ~個人防護具の必要性~	-	3 0	29 0	32 0	0		-
6月29日 (木)	17時00分~17時30分	体液噴霧・針刺し予防の高の個人防護具の必要性	稗 田 文 代 先生	0 0	0 0	0 0	0		東館10階南側カンファレンス室
6月29日 (木)	12時30分~13時00分 15時20分~15時50分	知っておこう。針刺し・切開対策	稗 田 文 代 先生	51 0	368 0	471 0	66	外部委託業者 (九州ビル サービス)	医学部B棟2階
7月 3日 (月) ~ 5日 (水)	-	N95マスク着脱演習	稗 田 文 代 先生	4 0	0 0	4 0	0		-
7月12日 (水)	16時45分~17時15分	ちよっとだけ耐性菌のお話	稗 田 文 代 先生	4 0	12 0	16 0	0		西館11階南側カンファレンス室
7月12日 (水)・19日 (水)	15時00分~16時30分	バイ菌のお話し	稗 田 文 代 先生	17 0	24 0	42 0	18	外部委託業者 (船久)	補久休憩室
7月24日 (月)	16時00分~16時30分	標準予防策・耐性菌について	渡 邊 浩 先生	2 0	20 0	22 0	0		東館6階南側カンファレンス室
8月16日 (水)	17時00分~17時30分	NICUにおける標準予防策 (演習)	三浦 美穂 先生	1 0	8 0	10 0	0		小児科カンファレンス室
8月23日 (水)	17時00分~17時30分	手洗いと個人防護具着用のタイミング	稗 田 文 代 先生	0 0	0 0	0 0	0		東館7階南側カンファレンス室

平成29年度感染管理研修会受講者数 (DVD受講者含む。)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師	看護業務者	コメディカル	事務	計	その他	備考	開 催 場 所
19 8月30日(水)	18時00分~18時30分	耐性菌と感染対策について	感染制御部 渡邊 浩 先生	0	11	0	0	11	0		東館11階研修カンファレンス室
20 9月6日(水)	18時10分~19時10分	手指衛生について(演習)	感染制御部 三浦 美穂 先生	0	0	24	1	25	0		病院本館2階・第5会議室
21 8月22日(水)~9月9日(土)	-	アウトブレイクのDVD視聴	-	9	30	1	1	41	0		-
22 9月12日(火)	17時30分~18時30分	第144回TQM講習会 ・医療安全外部監査委員会結果報告について ・当院感染症対策センターでのカルバペネム耐性菌内臓器科細菌 (GRE) アウトブレイクの総括	医療安全管理部 医療安全管理者 北野 孝典 先生 感染制御部 新井 憲 先生	109	362	121	65	657	2	学生(2名)	
23 9月13日(水)	17時00分~17時30分	個人防護具着脱(演習)	感染制御部 三浦 美穂 先生	0	10	0	0	10	0		
24 9月21日(水)	17時00分~17時30分	環境整備の必要性やPPE装着の必要性	感染制御部 渡邊 浩 先生	2	13	0	1	16	0		東館14階研修カンファレンス室
25 10月19日(木)	16時40分~17時30分	環境整備場について	感染制御部 三浦 美穂 先生	0	14	0	0	14	0		西館11階研修施設2階2
26 10月26日(木)	13時00分~13時30分	手指洗浄の必要性について(ATP測定)	感染制御部 三浦 美穂 先生	0	14	0	0	14	0		東館14階研修カンファレンス室
27 11月21日(火)	17時30分~18時30分	第146回TQM講習会 ・体組成測定について ・部室治療と看護について	医学部医学科外科科学講座 小児外科部門 吉田 崇 先生 医学部医学科形成外科・顎顔面外科講座 横口晋一郎先生	97	249	63	36	445	1	久留米市医師会	東水舎館イベントホール
28 11月22日(水)	17時00分~17時30分	スタンダードプリコーションの徹底	感染制御部 稗田 文代 先生	7	11	0	0	18	0		西館17階カンファレンス室
29 11月30日(木)	9時00分~15時00分	手洗い・マスクキャンペーン	感染制御部	25	126	40	38	229	0		総合診療棟1階玄関前
30 12月18日(月)	16時30分~17時00分	手指衛生と耐性菌の話	感染制御部 稗田 文代 先生	0	6	0	0	6	0		
31 12月19日(火)	17時30分~18時30分	第147回TQM講習会 ・インフルエンザの感染対策にどこまで根拠があるのか? ・がん療養治療指針 Update ~オピオイド治療を安全に行うために~	感染制御部 八坂 謙一郎 先生 薬劑部 小宮 孝俊 先生	61	134	61	29	285	0		東水舎館イベントホール
32 12月21日(木)	17時40分~18時40分	感染症内科で見える薬剤相互作用	感染制御部 八坂 謙一郎	1	0	38	0	39	0		
33 1月26日(金)	17時30分~18時30分	第148回TQM講習会 ・インシデント報告と医療事故報告制度について ・日本皮膚科学会における褥瘡診療ガイドラインのまとめ ~褥瘡診療での疑問点に対する回答~	医療安全管理部 副部長 横山 晋二 先生 皮膚科学講座 名瀬真 健太 先生	42	135	29	14	220	0		東水舎館イベントホール
34 1月31日(水)	12時30分~12時45分 15時30分~15時45分	インフルエンザ予防対策対策	感染制御部 稗田 文代 先生	46	6	3	0	55	65	外部研修費等(九州ビルカーズ)	医学部本館2階

平成29年度感染管理研修会受講者数 (DVD受講者含む。)

日	時	開催時間	内容	講師	医師	看護業務者	コメディカル	事務	計	その他	備考	開催場所
35	2月20日(火)	17時30分～18時30分	第149回TQM講習会 ・医療方又使用時の安全性 ～事故を起こさないために～ ・今年度のインフルエンザ発生状況について	臨床工学センター 技師長 杉原 学 先生 薬剤部 主任薬剤師 酒井 義朗 先生	26	91	20	8	145	0		筑水会館イベントホール
					57	18	6	2	83			
36	2月23日(金)	17時45分～18時15分	術後菌部感染について	感染制御部 渡邊 浩 先生	5	16	0	0	21	0		西横9階カンファレンス室
					0	0	0	0	0			
37	2月28日(水)	17時00分～17時30分	血液感染対策について	感染制御部 三浦 美穂 先生	0	17	0	0	17	0		病院本部2階第4会議室
38	3月6日(火)	15時00分～16時20分	心臓外科手術におけるSSI対策	外科看護部 田中 啓之 先生 外科看護部 高木 麗美 先生 感染制御部 八坂 誠一郎 先生	18	9	2	0	29	0		外科5階看護 カンファレンス室
					0	0	0	0	0			
39	3月19日(月)	17時00分～17時30分	感染経路別予防策と汚物処理について	感染制御部 津田 文代 先生	5	12	1	0	18	0		東横9階看護 カンファレンス室
					0	0	0	0	0			
40	3月22日(水)	16時45分～17時15分	産科における具体的な感染対策	感染制御部 三浦 美穂 先生	0	16	0	0	16	0		病院本部2階第2会議室
					0	0	0	0	0			
41	3月23日(金)	17時30分～18時30分	第150回TQM講習会<TQM社会> ・救命センターでの情報対策～緊急時の準備予防への取り組み～ ・産科口頭感染センターでのNSTの取り組み ・あなたのインシデント報告が業務を駆えた！ ・ケアをつなぐ～緩和ケア地域連携バスを導入して～ ・バス作り隊から進化を遂げよう！～2017年度 活動報告～ ・手指衛生を届けよう！～手洗いキャンペーンの経過～	救命センター 看護部 井崎 有貴 先生 救命センター 池田 真由美 先生 医療安全管理部 川野 佐由里 先生 緩和ケアチーム 専任看護師 村上 義樹 先生 看護部管理室 高野 正代 先生 感染制御部 津田 文代 先生	15	69	16	9	109			筑水会館イベントホール
					27	6	4	0	37			
42	3月28日(月)	16時00分～17時00分	食中毒について手指衛生の演習	感染制御部 渡邊 浩 先生・三浦 美穂 先生	58				58		外部委託業者(委託会)	病院本部2階 第1会議室
計					1,146	3,203	862	331	5,542	299		
					569	108	23	10	710			

※ 下段はDVD受講者数

規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none">・ 基準の主な内容 <p>(1) 医療安全確保のために必要な資質・能力</p> <p>医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有すること。</p> <p>(2) 病院の管理運営上必要な資質・能力</p> <p>高度な医療を司る特定機能病院の 管理運営上必要な資質・能力を有すること。</p> <p>(3) 久留米大学病院の理念・目標を実現するために必要な資質・能力</p> <p>久留米大学病院が掲げる理念・目標の実現を目指す、強い意思とこれらを継続的かつ確実に推進する強力なリーダーシップを有すること。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 公表の方法大学ホームページ、大学敷地内での掲示

規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
<ul style="list-style-type: none">・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無)・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無)・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無)・ 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
大学内ホームページ (イントラネット) に掲載している。
- ・ 規程の主な内容
 - (1) 大学病院に病院長及び副院長を置く。
 - (2) 病院長は、医学部医学科講座主任教授の中から選出する。
 - (3) 副院長は、病院長が選定し、診療部長会の了承を得るものとする。
 - (4) 副院長は、前項で選定された者の他、医療安全管理部、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務を統括する医療安全管理責任者及び看護部長が就く。
 - (5) 病院長は、大学病院全般の管理、運営にあたる。
 - (6) 副院長は、病院長を補佐し、病院長に事故あるときは、その職務を代行する。
- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割
副院長 : 病院長を補佐し、病院長に事故あるときは、その職務を代行する。
病院長特別補佐 : 病院長を補佐し、大学病院の運営全般に関し、病院長に助言等を行うとともに、病院長が必要と認める事項について業務を行うものとする。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
各種委員会の委員長等に就任及び運営すること等を通じて、病院長の指示のもとに病院経営・運営の一端を担うことができ、病院のマネジメント力に資する有効な経験を積むことができている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 平成 30 年 1 月 16 日、平成 30 年 9 月 7 日 久留米大学病院医療安全監査委員会実施</p> <p>・ 活動の主な内容：福岡大学病院から 3 名（医師、看護師、薬剤師）、医療を受ける者 1 目を委員として実施</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 公表の方法：ホームページで公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
坪井 義人	福岡大学病院	○	医療安全の知識 を持つ医師	無	1
濱松 美香	福岡大学病院		医療安全の知識 を持つ看護師	無	1
鷺山 厚司	福岡大学病院		医療安全の知識 を持つ薬剤師	無	1
平田 ナツ子			医療を受ける者	無	2
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容
学校法人久留米大学内部監査室を設置している。
内部監査規程の基づき活動を行っている。
- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
大学内ホームページ (イントラネット) に掲載している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none">・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会及び病院経営企画委員会・ 会議体の実施状況（ 理事会 ： 年 11 回 病院経営企画委員会 ： 年 6 回 ）・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ） （ 理事会 ： 年 11 回 病院経営企画委員会 ： 年 6 回 ）・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ）・ 公表の方法 大学内ホームページ（イントラネット）に掲載している。			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：理事会及び病院経営企画委員会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
別紙 2、3 のとおり			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 <p>院内通知および医療安全管理マニュアルへ掲載</p>

No.	メンバー名	職種	役職 (部署名)
1	八木 実	医師	小児外科診療部長
2	鳥村 拓司	医師	消化器内科診療部長
3	上野 高史	医師	メディカルセンター専任部長
4	田中 芳明	医師	医療安全管理部長
5	渡邊 浩	医師	感染制御科診療部長
6	福本 義弘	医師	心臓・血管内科診療部長
7	高須 修	医師	高度救命救急センター長
8	上野 知昭	看護師	看護部長
9	志波 直人	医師	整形外科診療部長
10	星野 友昭	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
11	谷脇 考恭	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
12	井田 弘明	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
13	川山 智隆	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
14	光山 慶一	医師	消化器内科診療部長
15	古賀 浩徳	医師	消化器内科診療部長
16	黒松 亮子	医師	消化器内科診療部長
17	野村 政壽	医師	内分泌代謝内科診療部長
18	田尻 祐司	医師	内分泌代謝内科診療部長
19	深水 圭	医師	腎臓内科診療部長
20	長藤 宏司	医師	血液・腫瘍内科診療部長
21	古賀 靖敏	医師	小児科診療部長
22	山下 裕史朗	医師	小児科診療部長
23	須田 憲治	医師	小児科診療部長
24	安陪 等思	医師	放射線科診療部長
25	藤本 公則	医師	放射線科診療部長
26	内村 直尚	医師	精神神経科診療部長
27	名嘉眞 武國	医師	皮膚科診療部長
28	赤木 由人	医師	外科診療部長
29	田中 啓之	医師	外科診療部長
30	奥田 康司	医師	外科診療部長
31	光岡 正浩	医師	外科診療部長
32	唐 宇飛	医師	外科診療部長

33	森岡 基浩	医師	脳神経外科診療部長
34	廣畑 優	医師	脳神経外科診療部長
35	吉里 俊幸	医師	産科診療部長
36	牛嶋 公生	医師	婦人科診療部長
37	井川 掌	医師	泌尿器科診療部長
38	梅野 博仁	医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療部長
39	白濱 正博	医師	整形外科診療部長
40	佐藤 公昭	医師	整形外科診療部長
41	平木 照之	医師	麻酔科診療部長
42	清川 兼輔	医師	形成外科・顎顔面外科診療部長
43	力丸 英明	医師	形成外科・顎顔面外科診療部長
44	吉田 茂生	医師	眼科診療部長
45	門田 遊	医師	眼科診療部長
46	楠川 仁悟	医師	歯科口腔医療センター長
47	福重 哲志	医師	緩和ケアセンター長
48	松岡 秀洋	医師	総合健診センター
49	秋葉 純	医師	病理部長
50	中島 収	医師	臨床検査部長
51	高森 信三	医師	臨床研修センター長
52	鶴田 修	医師	メディカルセンター専任部長
53	山下 典雄	医師	臨床工学センター長
54	淡河 悦代	医師	放射線治療センター長
55	緒方 裕	医師	腫瘍センター専任部長
56	田中 法瑞	医師	画像診断センター長
57	松瀬 博夫	医師	リハビリテーション部長
58	坂田 哲	事務	病院事務部長

理事会 役員 の 氏名、生年月日

法人名 (学校法人 久留米大学)

(ふりがな) 氏名	生年月日
	役職/担当
なが た けん せい 永 田 見 生	S24.2.8 理事長
ひろ た りょう 廣 田 りょう	S31.9.21 常務理事/財務
あり ま あき ひろ 有 馬 彰 博	S32.2.7 理事/総務・人事
く はら まさ はる 久 原 正 治	S24.1.8 理事/学事
まち だ けん 町 田 健	S32.3.27 理事
いし ばし きよし 石 橋 潔	S39.7.26 理事
かん ばら かず ひろ 神 原 和 宏	S34.7.2 理事
あさ み よし つゆ 浅 見 良 露	S28.8.23 理事
い とう たすく 伊 藤 祐	S39.9.21 理事
うち むら なお ひさ 内 村 直 尚	S31.7.3 理事
や ぎ みのる 八 木 実	S31.1.8 理事
まつ もと ひで のり 松 本 英 則	S18.11.17 理事
え がしら よし と 江 頭 義 人	S17.4.20 理事
まつ だ しゅんいちろう 松 田 峻一良	S23.1.3 理事
すぎ けん ぞう 杉 健 三	S23.1.28 理事
おおく ぼ つとむ 大久保 勉	S36.3.11 理事
なが まつ ゆう いちろう 永 松 雄一郎	S27.5.28 監事
ひ ぐち あき お 樋 口 明 男	S37.6.13 監事

病院経営企画委員会 委員名簿

	委員名	役職名	備考
1	八木 実	病院長	委員長
2	志波 直人	病院長特別補佐	
3	上野 高史	副院長	
4	鳥村 拓司	副院長	
5	田中 芳明	副院長	
6	渡邊 浩	副院長	
7	福本 義弘	副院長	
8	高須 修	副院長	
9	上野 知昭	副院長	
10	内村 直尚	医学部長	
11	永田 見生	理事長・学長	
12	廣田 りょう	常務理事	
13	有馬 彰博	理事	
14	久原 正治	理事	
15	高木 一希	事務局長	
16	坂田 哲	病院事務部長	
17	川邊 貴光	病院経営室長	
18	長 義徳	病院事務部次長	陪席
19	野村 健次	管理課長	陪席
20	牟田 薫	医療連携センター事務室長	陪席
21	池尻 正治	情報企画支援室長	陪席
22	江口 昌文	医療安全管理室長	陪席
23	江口 訓史	事務局次長	陪席
24	廣江 慶行	経営企画室 経営戦略担当部長	陪席
25	宮本 貴宣	特命准教授	陪席

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 ・日本医療機能評価機構 平成27年8月7日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ・クリニカルインディケーター（CI）を久留米大学病院のHPに掲載。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・消化器病センター（消化器内科・消化器外科）、循環器病センター（心臓血管外科・心臓・血管内科）、呼吸器病センター（呼吸器外科・呼吸器内科）を外来部門に設置している。 ・がん治療の診療方針の検討等を行っている。	

(様式第 8)

久大病 (管) 第 28 号
平成 30 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人久留米大学
理事長 永田 見生

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修 (医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け) を実施するための予定措置

- ・国公立大学附属病院医療安全セミナー
- ・久留米保健所主催医療安全対策研修会
- ・九州厚生局医療安全ワークショップ
- ・日本病院薬剤師会医薬品安全管理者責任者講習会
- ・特定機能病院管理者養成研修 (日本医療機能評価機構)

2. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従 (7) 名、専任 () 名、兼任 (4) 名
うち医師：専従 (1) 名、専任 () 名、兼任 (2) 名
うち薬剤師：専従 (1) 名、専任 () 名、兼任 (2) 名
うち看護師：専従 (3) 名、専任 () 名、兼任 () 名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

平成 30 年 4 月から専従薬剤師配置済み